令和４年度

公共ホール邦楽活性化事業報告書

一般財団法人 地域創造
Japan Foundation for Regional Art-Activities

■はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業を実施しています。

これらの事業の一環として地域創造では、平成22年度から都道府県や政令指定都市を対象とした邦楽地域活性化事業を実施してきましたが、令和３年度から対象を市町村等に変更して、「公共ホール邦楽活性化事業」を実施しています。

公共ホール邦楽活性化事業は、アウトリーチの研修を終えた邦楽の演奏家と、専門家であるコーディネーターを市町村等に派遣し、公共ホールと演奏家が共同で企画した参加体験型の地域交流プログラムと、コンサートなどのホールプログラムを実施するものです。地域創造では、本事業を通じて、公共ホールの利活用やホールスタッフの企画・制作能力の向上、日本の伝統音楽の継承発展、創造性豊かな地域づくりを支援しています。

この報告書は、全国８団体との共催により実施された、「令和４年度公共ホール邦楽活性化事業」の内容を取りまとめたものです。報告書の中では、実施団体からの報告に加え、担当者による事業を実施しての成果や反省点・課題を掲載しております。また、各団体に派遣されたコーディネーターによるレポートを掲載し、事業に関して気づいた点や、企画・制作のノウハウ、事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点を、ケーススタディとして記録しています。あわせて、邦楽アウトリーチの実例として、各地域交流プログラムの進行シートを掲載しています。

全国の地方公共団体ならびに公共ホールのみなさまにおかれましては、邦楽に関する地域交流プログラムも含めた自主事業にお取り組みいただき、本報告書をご活用いただければ幸いです。

終わりに、各公演を主体的、積極的に実施いただいた実施団体、各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいた演奏家、事業の実施にあたり貴重なアドバイスやご尽力をいただいたコーディネーター、その他多くの関係者の皆さま方のご協力のもと、令和４年度の事業を実施することができましたことに対して、この場を借りて深く感謝申し上げます。

一般財団法人地域創造

（本文中の社名、所属、役職等は令和４年度のものです）

目　次

Ⅰ．令和４年度公共ホール邦楽活性化事業の概要…… 5
実施概要…… 6
実施体制・実施日程…… 7
全体研修会実施概要…… 8
チーフコーディネーターコメント：児玉　真…… 9

Ⅱ．令和４年度公共ホール邦楽活性化事業報告……11
＜和歌山県上富田町＞
実施団体報告：築山　知弘（上富田町）……12
コーディネーターレポート：谷垣内　和子……15
アウトリーチ進行シート：木ノ瀬　佳子……17

＜新潟県魚沼市＞
実施団体報告：姉崎　裕子（特定非営利活動法人魚沼交流ネットワーク）……20
コーディネーターレポート：米澤　浩……24
アウトリーチ進行シート：木ノ瀬　佳子……27

＜茨城県鉾田市＞
実施団体報告：槐　彰一、佐伯友弥（鉾田市）……29
コーディネーターレポート：谷垣内　和子……33
アウトリーチ進行シート：大久保　真利子……35

＜秋田県大館市＞
実施団体報告：山内　知生（一般財団法人大館市文教振興事業団）……37
コーディネーターレポート：谷垣内　和子……41
アウトリーチ進行シート：田中　元樹……43

＜埼玉県上里町＞
実施団体報告：髙橋　達也（一般財団法人上里町文化振興協会）……48
コーディネーターレポート：伊藤　由貴子……51
アウトリーチ進行シート：大久保　真利子……54

＜富山県黒部市＞
実施団体報告：大野 徹（公益財団法人黒部市国際文化センター）……56
コーディネーターレポート：米澤　浩……60
アウトリーチ進行シート：田中　元樹……62

＜東京都練馬区＞
実施団体報告：五田　詩朗（公益財団法人練馬区文化振興協会）……67
コーディネーターレポート：伊藤　由貴子……70
アウトリーチ進行シート：丹羽　梓……73

＜神奈川県座間市＞

実施団体報告：中野　九夢（公益財団法人座間市スポーツ・文化振興財団）……74
コーディネーターレポート：米澤　浩……78
アウトリーチ進行シート：丹羽　梓……81

Ⅰ．令和４年度公共ホール邦楽活性化事業の概要

令和４年度公共ホール邦楽活性化事業　実施概要

１　趣　旨

公共ホールの活性化と地域における芸術活動を担う人材の育成及び環境づくりに寄与し、あわせて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とし、市町村等との共催により、公共ホール等を拠点とした、邦楽演奏家による地域交流プログラムに関する事業を実施する。

２　対象団体

市町村（特別区及び政令指定都市含む。）及び市町村の設置する公の施設の管理を行う指定管理者等。

３　事業内容

⑴　研修事業

①　全体研修会

実施団体の担当者を対象に、邦楽事業の実施に必要な実践的ノウハウを取得するための研修会を実施した。

②　個別研修

担当コーディネーターが現地での事前打合せや会場下見を実施、事業の円滑な実施のための助言を行った。

⑵　公演事業

①　地域交流プログラム（アクティビティ）

学校等でのアウトリーチ（ミニコンサート）など、地域との交流を図る事業を原則として４回（１日につき２回）実施。

②ホールプログラム

公共ホール等において邦楽コンサートまたはワークショップを実施（原則として１回）。
なお、コンサートは有料公演とし、入場料収入は実施団体に帰属する。

４　経費負担

⑴　一般財団法人地域創造が負担する経費

①　演奏家派遣に係る経費

出演料、現地移動費を除く交通費･宿泊費等、派遣に係る保険料、楽器運搬費（現地運搬費を除く）。

②　コーディネーター派遣に係る経費

謝金、現地移動費を除く交通費・宿泊費等、派遣に係る保険料。

③　地域交流プログラム負担金

実施市町村が支出した地域交流プログラムに係る経費のうち、楽器運搬費およびこれに準ずるものとして特に地域創造が認めたもの。（限度額10万円）

⑵　実施団体が負担する経費

一般財団法人地域創造が負担する経費以外の経費（現地移動費、舞台制作費、広報宣伝費、全体研修会への参加旅費など）。

令和４年度公共ホール邦楽活性化事業　事業体制･実施日程

■事業体制

令和４・５年度登録演奏家	川田　健太（箏、三絃）
	藤重　奈那子（箏、地歌三絃、十七絃）
	棚原　健太（歌三線）
チーフコーディネーター	児玉　真（一般財団法人地域創造プロデューサー）
コーディネーター	伊藤　由貴子（(公財）神奈川芸術文化財団　音楽事業部長／神奈川県立音楽堂　館長）
	谷垣内　和子（(公社）日本芸能実演家団体協議会　実演芸術振興部　企画室長）
	米澤　浩（邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団副代表）
サブコーディネーター	大久保　真利子（九州大学総合研究博物館専門研究員）
	田中　元樹（指揮者）
	丹羽　梓（横浜国立大学大学院博士後期課程）
アシスタント	木ノ瀬　佳子（東京音楽大学大学院　多文化音楽研究領域　事務助手

■事業実施日程　※日程順

No	都道府県	市町村	実施団体	実施会場	本番日程	演奏家	コーディネーター等
1	和歌山県	上富田町	上富田町	上富田町文化会館	令和４年11月10日（木）～11月12日（土）	本間　貴士 多田　彩子 澄川　武史	谷垣内和子 木ノ瀬佳子
2	新潟県	魚沼市	特定非営利活動法人魚沼交流ネットワーク	小出郷文化会館	令和４年11月24日（木）～11月26日（土）	川田　健太	米澤　浩 木ノ瀬佳子
3	茨城県	鉾田市	鉾田市	鉾田市立大洋公民館	令和４年12月8日（木）～12月10日（土）	藤重奈那子	谷垣内和子 大久保真利子
4	秋田県	大館市	一般財団法人大館市文教振興事業団	大館市民文化会館（ほくしか鹿鳴ホール）	令和５年１月19日（木）～１月21日（土）	藤重奈那子	谷垣内和子 田中　元樹
5	埼玉県	上里町	一般財団法人上里町文化振興協会	上里町総合文化センター（ワープ上里）	令和５年１月26日（木）～１月28日（土）	藤髙りえ子 簑田　弘大 石田真奈美	伊藤由貴子 大久保真利子
6	富山県	黒部市	公益財団法人黒部市国際文化センター	黒部市国際文化センター	令和５年１月26日（木）～１月28日（土）	棚原　健太	米澤　浩 田中　元樹
7	東京都	練馬区	公益財団法人練馬区文化振興協会	練馬区立大泉学園ゆめりあホール	令和５年２月２日（木）～２月４日（土）	棚原　健太	伊藤由貴子 丹羽　梓
8	神奈川県	座間市	公益財団法人座間市スポーツ・文化振興財団	座間市立市民文化会館（ハーモニーホール座間）	令和５年２月21日（火）～２月23日（木祝）	川田　健太	米澤　浩 丹羽　梓

令和４年度公共ホール邦楽活性化事業　全体研修会実施概要

１　概　要　　令和４年度の実施団体担当者を対象とした全体研修会を実施。１日目は当事業の基本的な考え方などのゼミや令和４・５年度登録演奏家による演奏とトークのプレゼンテーションを、２日目は過去の事例紹介などのゼミや実施団体担当者によるプレゼンテーション、最後にはグループに分かれて企画検討及び発表を実施した。

２　参加者　　令和４年度実施団体担当者

３　日　程　　令和４年５月12日（木）、13日（金）

４　会　場　　５月12日：としま区民センター、５月13日：一般財団法人地域創造会議室

５　全体研修会スケジュール

月日	会場	時間		内　容
５月12日	としま区民センター	14:00 ～14:10	10分	開会・地域創造挨拶・参加者紹介
		14:10 ～14:40	30分	事業概要説明 　地域創造
		14:40 ～14:45	5分	休憩
		14:45 ～15:30	45分	アウトリーチ概論 　児玉真／チーフコーディネーター
		15:30 ～15:40	10分	プレゼンテーションの聴き方 　邦楽コーディネーター
		15:40 ～16:00	20分	休憩・移動
		16:00 ～17:25		令和４・５年度登録演奏家プレゼンテーション 　川田　健太（箏、三絃） 　藤重　奈那子（箏、地歌三絃、十七絃） 　棚原　健太（歌三線）
		17:25 ～18:00	35分	休憩・移動
		18:00 ～19:00	60分	交流会
５月13日	地域創造会議室	10:30 ～11:15	45分	公共ホールにとっての邦楽事業とは 　伊藤由貴子／コーディネーター
		11:15 ～12:00	45分	邦楽のいろは 　谷垣内和子／コーディネーター
		12:00 ～13:00	60分	休憩・昼食
		13:00 ～14:00	60分	市町村事例と邦楽公演の制作について 　香川志帆、當銘弓佳（つくば市）、米澤浩／コーディネーター
		14:00 ～14:10	10分	休憩・転換
		14:10 ～15:10	60分／ １団体 ７～８ 分程度	実施団体からのプレゼンテーション
		15:10 ～17:10	120分	グループミーティング～企画案をまとめてみる
		17:10 ～17:15	5分	閉会・地域創造挨拶

チーフコーディネーターコメント
児玉　真

地域の公共ホールの邦楽事業の活性化に向けて

アーチストはそのジャンルのある部分でのこだわりによってその価値を保持している、というのは真実だが、それ以外の部分では普通の人（色々な人がいるけれど）、というのが長く演奏家の皆さんとつきあってきた私の感想である。だからこそ尊敬も出来るし、会話や議論で不要に緊張することもない。

日本では邦楽器の教育分野での必要性が言われ出して20年以上も経つが、近代の輸入文化である他ジャンル（クラシック音楽とか演劇ダンスなど）に比べて、公共の文化施設が伝統的な芸術文化、特に邦楽器を事業に取り入れることが非常に少ないこと、また、その理由の１つであろうと想像される邦楽の演奏家達との連携による普及啓発事業を考えるときに公共ホールの担当者が困難を感じている（他のジャンルよりも特殊なルールによって行われている､と思っている）ことを何とか払しょくできないか、ということが 大きなテーマでもあった。

さて、邦楽活性化事業は新しいステージに入った、と考えている。それは、市町村のホールが直接申し込むかたちとしたことで、地域の住民やコミュニティなどと直接接しているホールの方達との共働事業というスタンスがより明確になったことがひとつ、もう一つはアーチストが邦楽の普及啓発（音楽が主人公）という視点だけではなく、地域のどんなところにどのような刺激を与えられるか、ということを思考するもう一つの方向性が付加されてくるだろう、ということが大きいのではないかと思う。

これも今までとは違ってオーディションによって決まった若い演奏家の方々と、アウトリーチとコンサート（またはワークショップ）を市町村のホールの方たちとともにプログラムしていく冒険が始まったと言っても良いかもしれない。同時に、ホールの担当者もコーディネーターも色々なやり方に挑戦できる可能性が広がったとも言える。

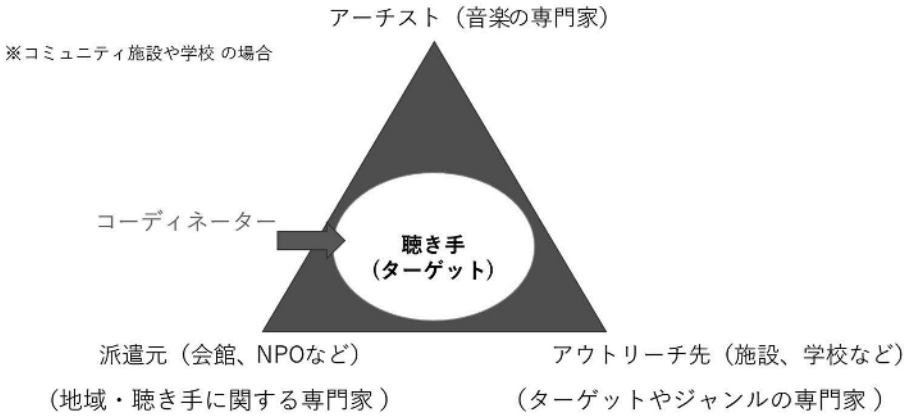
前年度からの延期の上里、上富田はどちらも変化に富んだアウトリーチ先で先輩アーチストの工夫を引き出していたと思う。また今年度登録一年目の３組の若い演奏家たちは、研修段階では未だプログラムが出来上がっていない感じも見られたけれど、今年のアウトリーチを２カ所づつ経験することで、自分の立ち位置や事業のスタイルが明確になってきたように見える。その意味でも次期アーチストにはもう少し早めに経験を積んでもらえるような方策をとることが良いだろうと思う。

クラシック音楽の事業（おんかつ）でもたびたび言っていることだが、アウトリーチでは「こうすれば良い」という正解が無い（と言うより多様すぎる）ので、アーチストも、ホール担当者も、コーディネーターも、その位置取りは「こうでならねばならぬ」というような決まりが曖昧なままスタートしないといけないのがこの事業の特徴と言えるかもしれない（大変だけど…）。

しかし、大きな構造というのは大体下の図のような感じではないかと思っている。理想はそれぞれの専門家がその能力を発揮することとその間をうまく調整するコーディネーターがうまく機能することであろう。それは次年度以降に会館が独自でこのような普及啓発事業を継続して行くことを視野に入れると望ましいといえるのだが､多分最初の年から理想的な状況を実現できているホールは多くないだろう。おんかつでも実施後にコーディネーターのアドヴァイスを受けて事業を継続していた会館もあったことを考えると、そのようなことも視野に入れても良いだろうと思う。

コンサートもクラシック音楽以上に転換や、座奏と立奏の変化など制作的なノウハウを必要とする局面が幾つかのホールであったように思うが、各ホールでも経験を積むことで自分たちのやり方を見つけていって欲しい。

アウトリーチの構造(概念図)



2023年３月　児玉真

Ⅱ．令和４年度公共ホール
邦楽活性化事業報告

実施団体：上富田町
実施時期：令和４年11月10日（木）～令和４年11月12日（土）
出演アーティスト：本間貴士（箏）　多田彩子（箏・琵琶）澄川武史（笛）

アクティビティ

タイトル：古におもいをはせて
期　　日：令和４年11月10日　10：00～10：45
会　　場：世界遺産　八上王子跡（八上神社）　社殿
参 加 者：岡地区高齢者対象（21人）

岡地区高齢者対象に回覧板等で告知し実施。八上神社の社殿での演奏は、箏、琵琶、笛が想像していた以上に、ロケーションとマッチして幻想的、神秘的な空間での実施になった。

タイトル：古におもいをはせて
期　　日：令和４年11月10日　15：30～16：15
会　　場：世界遺産　稲葉根王子跡
参 加 者：岩田地区高齢者対象（25人）

岩田地区高齢者対象に実施。開場の1時間以上前からお客さんが集まりだして、公開リハーサルのような形になった。小さい頃から慣れ親しんだ場所での公演を心待ちにしてくれていたのが鑑賞している様子からうかがえた。

タイトル：はじめての邦楽
期　　日：令和４年11月11日　11：00～11：45
会　　場：はまゆう支援学校
参 加 者：中等部51人　教員20人

普段馴染みのない和楽器のワークショップを兼ねて実施。プロジェクターを使用しわかりやすく楽器紹介と、「鶴の恩返し」の物語を演奏を交え実施。子供たちは初めて聞く和楽器の音色に集中して鑑賞できた。また町のゆるキャラのひょうたん先輩も登場し、和楽器について楽しく勉強できた。

タイトル：古におもいをはせて
期　　日：令和４年11月11日　15：30～16：15
会　　場：春日神社　境内
参 加 者：市ノ瀬地区高齢者対象（12人）

市ノ瀬地区高齢者対象に実施。リハーサル中に奏者がムカデにかまれるアクシデントがあった。幸い大事には至らずよかったが、野外での実施は想定外のことも想定されると大変勉強になった。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：響け和楽器アンサンブルのものがたり
期　　日：令和４年11月12日　14：00～15：30
会　　場：上富田文化会館　文化ホール
参 加 者：155名

「古の熊野に思いをはせて」を副題に、熊野を連想させるようなプログラムを作っていただき、照明等でショーアップすることによりアーティスト、楽曲がもつイメージを大切にし演出するコンサートを実施。

ホール担当者の意見・評価
上富田町教育委員会社会教育班　築山　知弘

① 応募の動機・事業のねらい

邦楽の力を借り、地域の方々には馴染みのある文化財で邦楽公演することによって改めて存在、重要性を発見し感じてもらい、邦楽の持つ魅力を体験してもらう。

② 企画のポイント

上富田町は熊野古道の入口にあたり、古くから「くちくまの」と呼ばれています。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道熊野古道」にも町内の王子跡が2か所追加登録されました。改めて地域資源を掘り起こし、邦楽の力を借りて双方の魅力を伝えられる企画とした。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

実現にあたり、神社総代会、奉賛会等の積極的な協力により特に問題なく実施できた。

天気の問題が一番の心配だった

④ 上記③をどのようにクリアしたか

雨天の場合を想定し、各会場近くの体育館、公民館でも実施できるよう準備しました。実施判断は当日の朝7時の天候状態をみて判断しました。会場の変更に伴う連絡は、役場の防災行政無線を使用し、各地域に会場変更の案内が放送されるように段取りをし、野外会場に変更の看板、変更会場に実施看板をそれぞれ準備しました。

⑤ 事業を実施しての成果

天気、気候、アーティスト、関係者、すべてに恵まれた中で実施できたことに感謝しています。アクティビティの内容も1か所、支援学校を入れたことでアーティストの皆様には大変負担をかけたことと思いますが、凄く楽しんで演奏している姿にスタッフも観客も和楽器の世界に引き込まれ、邦楽×文化財のコラボに大きな成果を出せたと思う。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

今回野外の公演は平日の日中ということもあり、地域の高齢者を中心に、老人クラブ、回覧板等で告知したが、予定していた定数に達しなかった。魅力ある告知ができなかったのが要因だと考えられる。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

邦楽×文化財のコラボ企画だったが双方にとって有益な事業になったと思う。普段見慣れた風景に、邦楽の力が加わることにより、新しい景色に見え、改めて地元、地域が持っている資源のすばらしさを実感する良い機会になった。今回、邦楽、文化財、双方の活性化につながったと感じた。また、邦楽が持つポテンシャルの高さを実感したとともに、邦楽×文化財の進むべき道がみえてきたと思った。

コーディネーターレポート
谷垣内　和子

パンダに会えるテーマパークで有名な和歌山県。唯一の空の玄関口、南紀白浜空港から車で20分余りの場所に上富田文化会館がある。みそぎの川として知られる富田川が町を縦貫するように流れ、古くから、熊野への参詣道の入り口に位置することから「口熊野」と呼ばれてきた。町内の八上王子跡と稲葉根王子跡は、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されている。今回は多様な地域資源を活用する取り組みとなった。

■復習から始まったホール公演への道のり

2021年９月に実施する予定だった上富田町では、同年７月上旬にアーティスト全員で研修を兼ねた下見を行っていたほか、事業コンセプトの共有からチラシ、ポスター等も完成していた。新たな担当者・アシスタント等を交えて、復習を兼ねながら、気持ちも新たに取り組めたのはとてもラッキーだった。

会館側では当初から、八上王子跡と稲葉根王子跡・春日神社に、県立はまゆう支援学校を加えた４か所での実施を考えていた。２つの王子跡も神社も、地域の人々にとって大切な心の拠り所である。樹齢を重ねた木々が生い茂り、自然と背筋が伸びる。

最大の問題は、支援学校以外はすべて野外での実施という点だ。当然、天候に左右される。場所ごとに設営と撤去、移動が必要となる。音響や照明も専門性が求められる。不安は尽きない。雨天時の代替施設を確保し、各施設での実施をシミュレートしながら進めることになった。

コンサートのタイトルは、「響け、和楽器アンサンブルのものがたり～古の熊野に思いを馳せて」。関係者全員の思いがこもったものだ。昨年度は残暑を心配し、今年度は寒さが気になった。

■２つのアクティビティ・プログラム

①　チームの特性

アーティストは箏奏者で作曲家でもある本間貴士さんをリーダーに、箏と薩摩琵琶の多田彩子さん、石見神楽の出身で横笛奏者の澄川武史さんの３人。2017年に「邦楽地域活性化事業」に関わったことがあり、2022年10月に奈良県で舞踊と和楽器によるパフォーマンス・グループ「壹－ichi－」の旗揚げ公演を行ったばかりだった。

それぞれに扱う楽器も幅広く、琵琶歌や神楽歌など、声の表現も加わる。現代的な創作と演奏の領域で個性を発揮するチームだ。野外での実践を考慮して楽器転換を最小限にするため、二十五絃箏と十七弦、薩摩琵琶、数種の横笛を用いることにした。

もとより本間さんは、日本史や古典文学への造詣が深く、日本語や声を活かした作品づくりを積極的に行ってきた。熊野というパワースポットでの取り組みに、いつも以上に気持ちが向かっていたように感じる。

②　野外でのアクティビティ

２つの王子跡と神社では、主に各地区の老人会メンバーが対象となった。八上王子跡では時雨がパラついたが、社殿での実施だったのでさほどの影響はなかった。それ以外は、11月とは思えない温かさとお天気に恵まれた。心配していた音響と照明も、担当者のお二人が専門技術の持ち主だったので、何の心配もなかった。この時ばかりは「早く言ってよ～」の気分ではあった。

また、上富田町は演歌歌手の坂本冬美さんの出生地である。もう一つの地域資源というべき存在だ。これを活用しない手はない。プログラムは、神楽のイメージをまとった《熊野詣》をオープニングに、《鵲の橋》《夜桜お七》《祇園精舎》《また君に恋してる》の構成となった。全曲本間さんの自作と編曲である。

場所がもつ雰囲気を尊重しつつ、参加者の心に寄り添った内容になったと思う。

③　はまゆう支援学校でのアクティビティ

同校は、2023年４月から南紀支援学校と統合して南紀はまゆう支援学校と改称。新たなスタートを切ることになっていた。ここでは中等部の生徒全員を対象に体育館で実施した。音響やプロジェクター操作等、会館スタッフたちの協力を得て、想像以上に本格的なアクティビティが実現した。

オープニングは本間さん編曲による《紅蓮華》。一気に生徒たちの心をキャッチする。メンバー３人の出身地にちなむゆるキャラを活用した自己紹介から、笛・琵琶・箏の楽器紹介でそれぞれのソロを聴かせた後、最後は和楽器伴奏で語る《鶴の恩返し》。以前、熊本で実施したプログラムを進化させた形だ。画像付きの説明は分かりやすく、テンポの良い曲では飛び跳ねる生徒もいて、楽しげな雰囲気が溢れた。

最大の特色は、役場内の協力を得て、町のゆるキャラ「ひょうたんせんぱい」が登場し、演奏に合わせて即興的に舞ったり、生徒と一緒に耳を傾けたりするシーンを交えられたこと。最後は今年度で歌い納めとなる校歌を、生徒たちの手話合唱と和楽器で共演して終わった。コロナ禍ならではの取り組みとして深く心に残る。

■ホール公演について

コンサートでは《知波夜夫留》《坐》《月讀》《寂滅為楽》を取り上げ、アンコールに町のイメージソング《鳳凰の町》を和楽器バージョンで演奏して幕を閉じた。全曲、本間さんの自作と編曲による構成で、前例のないケースとなった。邦楽に限らず、現代曲のみによるプログラムは集客に苦労することが少なくない。いくばくかの不安を抱きつつも、上富田町ならではのコンサートになることを期待した。

担当者と音響・照明スタッフは、アーティストたちが直前に奈良県内で行った「壹－ichi－」の公演に出向き、本間さんの作品への理解を深めた上でプランを練っていた。当日は、ひょうたんせんぱいの再登場も叶った。関係者の熱意と協力のお蔭で、この邦楽事業始まって以来というべき充実したステージが実現した。

■整った条件から生まれた協働作業

今回は作編曲をこなし、野外等でのライブ経験も豊富な本間チームならではのプログラムだった。音響・照明も専門技術の持ち主がいたからこそ実現できたものだ。地域住民への働きかけを含め、細やかな準備を行ってくださっていたことも成功の要因である。各会場の設営・撤収時に発揮された役場職員たちの手際の良さとチームワークの見事さも圧巻だった。こうした総合力を備えていることが、野外での実施を強く推進する背景にあったことを気づかされた。

改めて振り返ると、延期によって生まれた１年間がプラスに働いたことを痛感する。天候も含めて幸運な出会いに感謝するばかりである。どこでも、誰でも、同じように実施できるとは言い難い側面も少なくない。けれども、地域の多様な文化資源を活用する取り組みに可能性を拓いたことは確かだ。

ただ、野外では、鳥のさえずりや近隣の農作業の音、道路近くでは車の音など、さまざまな生活音が共存する。それらも環境音として楽しめると良いが、時として過度な音量もあり得る。学校での作業音も事前に分かっていれば、何らかの調整をお願い出来たのではないかと感じる。その他、スズメバチが飛び交っていたり、ムカデが生息していたり……。予期せぬ出来事が起こり得ることも心に留めておきたい。

アウトリーチ進行シート（和歌山県　上富田町）
木ノ瀬　佳子（アシスタント）

実施日	令和４年11月10日
実施先	稲葉根王子跡
対象・実施先の情報	地元の高齢者（老人クラブ）25名を対象に境内にて実施。 箏は立ち立奏。本間・多田はヘッドセットマイク、澄川はスタンドマイクを使用。
出演者	本間貴士（二十五絃箏・十七絃）、多田彩子（二十五絃箏・薩摩琵琶）、澄川武史（篠笛・神楽笛・能管）
ねらい／目標	熊野古道の入口「口熊野」として栄えた、二つの世界遺産を含む上富田町の地域資源を活用し、邦楽の力を合わせて双方の魅力を発信する。 参加者にとっては普段訪れる場所であるが、日常とは異なる景色、非日常の体験をしてもらいたい。

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
0：00	上富田町教育委員会の築山さん挨拶・演奏者入場（２分）	毎年、上富田文化会館の事業で地域の皆さんや学校を対象に公演を行なっています。今年は皆さんに親しみのある伝統的な場所で開催できないかと考えました。演奏者を拍手でお迎えください。	築山さんの紹介で演奏者入場。
2：00	M1　熊野詣（３分）	演奏：本間（二十五絃箏）、澄川（篠笛）、多田（薩摩琵琶）	
5：00	挨拶・自己紹介 （２分30秒）	本間：みなさんこんにちは。まずは自己紹介をさせていただきます。本日箏を演奏します本間貴士です。 澄川：篠笛・能管を演奏します澄川武史です。 多田：薩摩琵琶と箏を演奏します多田彩子です。 本間：お手元のチラシにあるように、週末に上富田文化会館のホールで演奏会を行います。それに先立ちまして、こうして史跡でミニコンサートをさせていただいております。	多田：自己紹介後に琵琶を置いて二十五絃箏へ移動・調絃。 本間：MCをしながら十七絃へ移動。
7：30	楽器紹介 （１分30秒）	本間：少し楽器の紹介をさせていただこうと思います。箏といえば一般的な箏は13本の絃です。笛はお囃子とかご神事で吹かれる方もいらっしゃるかと思いますが、今日は能や歌舞伎音楽で使われる笛です。薩摩琵琶は和楽器の中でもなかなか身近にない音色ですよね。どうぞお楽しみください。	
8：30	MC（２分） M2　鵲の橋（７分）	本間：次にオリジナルの曲をお聴きいただきます。もう秋めいておりますが､曲は七夕伝説に関する夏の楽曲です。（七夕伝説に関する話） 演奏：多田（二十五絃箏）、澄川（篠笛）、本間（十七絃）	
17：30	箏紹介（２分30秒）	本間：先ほど一般的な箏は13本の絃と説明しましたが、私が弾いているのが十七絃という楽器です。低い音がしますので和楽器の中ではベースの役割をしています。多田さんが演奏している箏は二十五絃箏と言って、一般的な箏のおよそ倍の絃があります。考案されて約30年の若い楽器です。	本間・多田：調絃を変える。
20：00	MC（１分） M3　夜桜お七（５分）	本間：夏を過ぎまして、季節は逆戻りしますが春の曲をお聴きいただきます。この町を代表する著名人、坂本冬美さんの曲です。 演奏：多田（二十五絃箏）、澄川（篠笛）、本間（十七絃）	
26：00	MC（４分） M4　祇園精舎（７分）	本間：夜桜お七をお聴きいただきました。ベースのような十七絃、ピアノのような伴奏の二十五絃箏、メロディを演奏する笛、この3つの楽器があれば、今回は歌謡曲を演奏しましたが、洋楽など聴き馴染みのある曲も演奏することができます。 次はまたオリジナルの曲を演奏いたします。（熊野詣や平家物語の話）平家物語から祇園精舎を題材とした曲を演奏いたします。薩摩琵琶でよく弾き語りされる曲ですが、箏と笛を交えて私たちの世界観をお楽しみください。 演奏：本間（二十五絃箏）、澄川（能管）、多田（薩摩琵琶）	多田：二十五絃箏の調絃、移動して琵琶の調絃。 本間：二十五絃箏へ移動。

37：00	MC（３分30秒） M5 また君に恋してる （４分30秒）	本間：早いもので次で最後の曲です。最後も上富田町にちなんで坂本冬美さんの曲です。また君に恋してるを演奏いたします。 演奏：多田（二十五絃箏）、澄川（篠笛）、本間（十七絃）	本間：十七絃へ移動・調絃。 多田：琵琶を置いて二十五絃箏へ移動・調絃。
45：00	挨拶・退場 （１分）	本間：本日はありがとうございました。ご都合がよろしければ上富田文化会館の演奏会にもお越しいただければ嬉しいです。	３人でお辞儀をして退場。

実施日	令和４年11月11日
実施先	和歌山県立はまゆう支援学校
対象・実施先の情報	中学生51名、教員20名を対象に体育館にて実施。 スクリーン・プロジェクターを設置してパワーポイントを使用。 本間・多田はヘッドセットマイク、澄川はMC時にスタンドマイクを使用。
出演者	本間貴士（二十五絃箏・十七絃）、多田彩子（二十五絃箏・薩摩琵琶）、澄川武史（篠笛・神楽笛・能管）
ねらい／目標	ひょうたん先輩と一緒に和楽器の音色を体感してもらう

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
0：00	入場・挨拶 （１分30秒）	本間：こんにちは。今日は日本の楽器、和楽器を見て、体感してほしくて来ました。中学生ということだけど、みんな何年生かな？（それぞれ挙手してもらう）１～３年生まできっとみんな知っているだろうなって曲を、箏と笛で演奏します。	拍手を受けて入場。 多田は琵琶を設置してから二十五絃箏の方へ。
1：30	M1　紅蓮華 （３分）	演奏：多田（二十五絃箏）、澄川（篠笛）、本間（十七絃）	
4：30	自己紹介 （６分30秒）	本間：みんな知ってる曲だった？鬼滅の刃、とても流行ってますね。 ここから自己紹介をしたいと思います。今日はモニターもあるから、見ながら覚えていってください。僕は本間貴士です。可愛いゆるキャラ・ぐんまちゃんのいる群馬県からやって来ました。ここ、上富田町にもかわいいキャラクターがいるよね。知ってる？そう、ひょうたん先輩です。 澄川:笛を吹いていた澄川武史です。僕は島根県の出身です。 多田：1曲目は箏を弾きましたが、後でここにある珍しい形の楽器も演奏します、多田彩子です。このキャラクター知ってる？そう、広島です。 本間：ぐんまちゃんも野球をやるんだけど、ひょうたん先輩はラグビーが得意なんだそうです。	モニター：本間の名前とぐんまちゃんの表示、ひょうたん先輩も追加。 澄川の名前としまねっこを表示。ぐんまちゃん・ひょうたん先輩も追加。 多田の名前とカープ坊やを表示。野球をするぐんまちゃんとラグビーをするひょうたん先輩も追加。
11：00	ゲストの登場 （１分30秒）	本間：今は画面上で紹介しましたが、今日はなんとみんなのために、スペシャルゲストが来てくれています。さあ、どれでしょう？ぐんまちゃんかな？では登場してもらいましょう。 大人気ですね、ひょうたん先輩です。今日は一緒に箏や笛について勉強してくれるそうです。	着ぐるみのひょうたん先輩が登場
12：30	楽器紹介・笛 （９分30秒）	澄川：まずは日本の笛の紹介をしたいと思います。今日はたくさんの笛を持って来ました。全部竹でできています。 篠笛はリコーダーのようにドレミが演奏できます。（篠笛の演奏） 神楽笛は篠笛と似ているけど指の穴が1つ少ない。ドレミは吹けなくて、地域のお祭りや伝統芸能で使用されます。（神楽笛の演奏） 能管は黒っぽくて篠笛よりも大きいです。これもドレミは吹けなくて、日本の伝統芸能である能や歌舞伎で使われます。風の音や幽霊の出てくる音、ヒシギという甲高い独特な音が鳴らせます。（能管の演奏）	モニター：篠笛、神楽笛、能管の表示。 本間・多田：笛の紹介中に調絃。その後は端で待機。 ひょうたん先輩：神楽笛に合わせて舞う。

22：00	楽器紹介・琵琶 （６分30秒）	多田：次に琵琶の紹介です。皆さん見たことありますか？大河ドラマとかで出て来たりしますね。（モニターを指して）この漢字を書きますが、たくさん種類があります。（琵琶の写真を5種類表示）私が持っているのは薩摩琵琶です。 薩摩ってなんのことか分かるかな？さつまいも、その答えが出て嬉しいです。さつまいもが有名な県が九州にあります。鹿児島県のことを昔は薩摩と呼んでいました。鹿児島県で活躍していたお侍さんたちが戦いに行く前に演奏して、気持ちを高めていました。薩摩琵琶の特徴は大きなバチで胴を叩くように演奏します。 演奏：薩摩琵琶の実演 多田：音を鳴らしながら叩く音が聴こえたと思うけど、打楽器のような役割や、物語の中で幽霊が出て来たような不気味な効果音にも使われます。	澄川：マイクスタンドを端に置いてハケる。 モニター：琵琶の表示。 多田：琵琶を持って登場。 モニター：琵琶の画像を表示。 薩摩琵琶・薩摩の表示。 鹿児島の表示を追加。
28：30	楽器紹介・箏 （６分）	本間：次は箏の紹介をしたいと思います。今日持って来ている箏は、一般的な箏より絃の数が多いです。一般的な箏の写真を見てみましょう。（モニターに箏の画像を表示）普通の箏は絃の数が13本です。じゃあ僕が弾いていた低い音の箏は何本あるでしょう？ 17本です。数えながら鳴らしてみましょう。（17本鳴らす） 今度はこっち、高い音の箏の絃は何本でしょう？ 25本です。これも数えてみようか。（25本鳴らす） みんなは箏を聴くのは初めてかな？（春の海の冒頭を演奏） お正月になるとスーパーとかで聴こえてくるよね。箏って言うとお正月のイメージがあるけど、僕たちは季節は関係なく様々な演奏をしています。	本間：登場 多田・ひょうたん先輩：ハケる。 モニター：箏の表示。
34：30	MC（２分） M2　校歌（２分） MC（２分）	本間：ここでひょうたん先輩にも協力してもらって、みんなで演奏してみようと思います。みんな、校歌は歌える？先生から、校歌を手話で歌えるって聞いたよ。僕たちが伴奏をするから、みんなは手話で演奏してみましょう。 演奏：多田（二十五絃箏）、澄川（篠笛）、本間（十七絃） 本間：素晴らしいですね。ひょうたん先輩もここまでありがとうございました。	それぞれ演奏位置へ移動。 生徒はひょうたん先輩の指揮に合わせて手話で歌う。 演奏後、みんなに手を振られながらひょうたん先輩は退場。
40：30	MC（６分） M3　鶴の恩返し （８分）	本間：最後は箏と笛と琵琶で物語を演奏します。みんな、この漢字読めるかな？そう、鶴。鶴にまつわるお話、鶴の恩返しです。どんなお話だったか思い出してみましょう。（モニターを使ってあらすじ解説） 笛で風の音や少し怖い音だったり、琵琶で物を叩く音だったり、箏も綺麗な音だけじゃなく色んな音が出せます。聴いてみましょう。 演奏：本間（二十五絃箏）、澄川（篠笛・能管）、多田（薩摩琵琶）	多田：二十五絃箏と琵琶の調絃 モニター：鶴の表示。 鶴の恩返しの物語を振り返る。
54：30	挨拶（１分30秒）	本間：風の音や雪の音、ドアを叩く音や鶴の鳴き声、聴こえたかな？みんなが育った日本で作られた楽器で、色んな音が表現できるということを聴いてもらいました。 今日はみんなに演奏を聞いてもらえて嬉しかったです。ありがとうございました。	演奏者3人、楽器の前に並んで挨拶。 ひょうたん先輩も再登場して挨拶。

実施団体：特定非営利活動法人魚沼交流ネットワーク
実施時期：令和４年11月24日（木）～令和４年11月26日（土）
出演アーティスト：川田健太（箏・三味線）　谷富愛美（箏・十七絃）　風間禅寿（尺八）

アクティビティ

タイトル：箏はじめてコンサート
期　　日：令和４年11月24日　10：35～11：20
会　　場：広神西小学校　多目的室
参 加 者：６年生　23名

演奏は子ども達がよく知っているアニメ曲「紅蓮華」や新潟所縁の「越後獅子」、伝統曲、現代曲「El salvador」などで、和楽器演奏の多様性や魅力を伝えた。

楽器紹介やクイズなどをモニター投影し、視覚的に分かりやすい方式にした。

子どもたちが楽器のしくみを知って驚いたり、迫力のある生演奏を楽しんでました。

タイトル：箏はじめてコンサート
期　　日：令和４年11月24日　13：55～14：40
会　　場：入広瀬小学校　音楽室
参 加 者：１年～６年生　９名

演奏内容はアクティビティ全校共通。全校で児童が９名のため低学年の集中度が懸念されたが、曲間のトークで興味付けができ、最後まで退室することなく鑑賞できた。

今年度で閉校になるためアンコール曲として校歌を演奏し、児童が一緒に歌うなど、思い出に残るコンサートになった。

タイトル：箏はじめてコンサート
期　　日：令和４年11月25日　11：40～12：30
会　　場：広神中学校　和室
参 加 者：１年生（１年２組）　27名

演奏内容はアクティビティ全校共通。１年生はコンサート後に箏の音楽授業につながるとのことで、プロの生演奏が第１回目の授業となった。地域団体の民謡民舞活動に参加経験のある生徒もいたが、年代の近いプロの演奏家による生演奏はすごいとの感想が多かった。気になった曲は「El salvador」がダントツであったので、グローバルな曲で和楽器の魅力が伝えられたと感じました。

タイトル：箏はじめてコンサート
期　　日：令和４年11月25日　11：40～12：30
会　　場：広神中学校ZOOM配信
参 加 者：１年生（１年１組）　30名

前日コロナ関係で学級閉鎖となるが、学校側でZOOM配信を行った。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：伝統と現代をつむぐ
　　若き演奏家たちによる邦楽コンサート
期　　日：令和４年11月26日　14：00～16：00
会　　場：魚沼市小出郷文化会館小ホール
参 加 者：88名

演奏ステージはフロアに平台（３間×９尺）を組み、客席は階段席（264席）に設置

第１部　（緋毛氈＋金屏風）伝統曲　和装　座奏

第２部　現代曲・童謡・アニメ主題歌・Ｊ-POPなど多彩ジャンル曲　洋装　立奏

箏経験者から未経験者まで、邦楽を楽しみたい50代以上がほとんどの客層であった。

終演後、箏体験（指導：川田健太・谷富愛美）参加者６名

同時開催：魚沼市文化協会伝統芸能活動紹介展

ホール担当者の意見・評価
魚沼市小出郷文化会館事業課　姉崎　裕子

① 応募の動機・事業のねらい

中学校の授業で和楽器を教えることが義務化になっている中、箏や三味線を学校で所有し、総合学習や授業で地元中学生が和楽器を演奏する機会も増えてきている。また、「この音とまれ！」「ましろのおと」のコミックやアニメ化、や「和楽器バンド」など若い世代にも邦楽の魅力発信がされている。しかし、地元の文化団体に箏演奏団体はないため、市民や児童生徒に邦楽鑑賞の機会を提供したい。また、古典邦楽だけでなく、和楽器による現代邦楽やアレンジ曲などの演奏を通じて、音楽の多様性や興味付けの幅を広げたい。

② 企画のポイント

箏・三味線・尺八の楽器の個々の魅力と、アンサンブルの魅力を生演奏で感じてもらいたい。

伝統曲だけでなく、現代曲や和楽器でのポップス曲アレンジ演奏などを演目に入れることにより、邦楽演奏を聞いたことのない世代やなじみのない方々に、身近に感じてもらえるようにする。

中学校の音楽授業「箏」とリンクして、アクティビティ（学校訪問コンサート）で鑑賞の機会を提供する。

学校所有の箏を借用して箏体験企画を計画し、生徒にホール公演鑑賞の動機付けとしたい。また、児童生徒と近い世代の演奏家が出演しカッコよく演奏することにより、あこがれに感じてほしい。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

邦楽コンサートの印象が専門的で高尚なイメージがあるため、気軽に楽しんでいただける雰囲気へ展開することがむずかしく、若い世代にPRする方法に苦労した。文化協会と行事がバッティングしたため、集客見込みが減少した。邦楽関連のコミック・アニメ情報などに関連付けを行う企画力が不足していたため、効果的に展開ができなかった。（「この音とまれ！」での曲を演奏するなら見に行きたいとの声あり）演奏家やコーディネーターに公演内容に関して相談ができれば良かった。

アクティビティ（学校訪問コンサート）は演奏内容が早い段階で決まらず、当日プログラム配付の他に児童生徒への事前興味付けの取り組みが後手にまわった。ホール公演の舞台転換が知識不足のため、スームズにできるか不安を感じた。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

アクティビティ会場やホール会場の下見と打合せでは、コーディネーターやサブコーディネーターの助言により、本企画のイメージが明確になった。市内の小学校から中学校にチラシ配付をお願いしたり、地元高校へもポスター・チラシ設置の協力を依頼し、広く広報活動を展開した。地元FMラジオに出演者からの音声メッセージを放送し、親しみやすさをPRした。地域の芸能団体や箏演奏の文化団体・個人の情報を活かし、営業を行った。舞台転換に箏製造会社の人を依頼したことにより、楽器転換上の心配が軽減された。

⑤ 事業を実施しての成果

・ホール公演：流派が異なる箏の演奏が目玉であったため、両流派の地元箏愛好家に鑑賞の機会を提供できた。会館としても大きな舞台転換がある邦楽コンサートは初めての経験であったため、大変勉強

になった。「和楽器はプロの音色を生で聞く機会がなかったので、とても良かった。自分もチャレンジしたいと思いました。」の感想に、今回の演奏会の成果を感じた。

・アクティビティ：実施校３校が受け入れに協力的で、公演実施に向けて会場設営等がスムーズに出来ました。「カッコよかった」の感想が多く、年代の近い演奏家があこがれの存在として、今回の取り組みが今後につながることを願います。

⑥　事業を実施しての反省点・課題

企画取り組みに関して、コーディネーター、サブコーディネーター、地域創造の皆様からご協力ご助言をいただき、当日を迎えることが出来ました。演奏家は２回の研修で、公演内容のブラッシュアップを図ったと聞いていますので、その成果が公演につながったと思います。ただ、学校や地元に対して公演を楽しみにできるような事前PR情報が、早い段階で共有できると良かったと思います。会館担当は邦楽に関する知識を学習し、また演奏家ともコミニュケーションを取りながら出演者や公演の魅力をもっと地域に伝えられれば良かったと思いました。

⑦　今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

魚沼市では民謡民舞の活動が多いが、今回公演の取り組みをとおして箏の演奏団体や個人と新しいつながりができ、地域の文化活動を再認識することができたことは大きな成果と言えます。また、若い出演者の演奏で、三味線や尺八の魅力が伝えられたので、地域文化団体活動の活性化復活に一石を投じられたのではないかと感じます。ホールが地域と人をつなぐ、人と人をつなぐ、世代間を超えた芸術の力を活かした活動の拠点になれるようなきっかけづくりを精進してきたいと強く感じました。

コーディネーターレポート
米澤　浩

リージョナル・カルチャーハブ

令和４年度新潟県魚沼市の『魚沼市小出郷文化会館』での「公共ホール邦楽活性化事業」を担当したのは、箏・三味線の「川田健太：かわだ けんた」さんがリーダーとなり、箏・十七絃の「谷富愛美：たにとみ まなみ」さん、尺八の「風間禅寿：かざま ぜんじ」さん（以下、敬称略）の３名だった。

【個別研修（現地下見）】

８月末、チームリーダーの川田・コーディネーターチーム・地域創造スタッフの『魚沼チーム』４名が上越新幹線「浦佐駅」に降り立ち、『小出郷文化会館』のプロデューサー姉崎さんと全体研修会から３か月ぶりに再会した。

今回本事業に手を挙げて下さった『小出郷文化会館』は、〈おんかつ〉等を活用して積極的に地域でのアクティビティを行って来ている会館。会館の事業ご担当姉崎さんも「会館が地域の文化拠点」（リージョナル・カルチャーハブ）であることに誇りを持ち、会館がこれまでの活動を通じて「地域でのネットワーク」をしっかり構築なさって来ていることを下見のやり取りで感じた。

下見の際にHP（ホールプログラム）のロビーで《お箏体験コーナー》を実施したいとの企画を伺った。会館から車で５分ほどの魚沼市立湯之谷中学校が保有しているお箏を体験用の楽器として貸して下さるとのこと。しかし、この湯之谷中はOR（アウトリーチ）の実施先には入っていなかった。地域創造の邦楽事業のOR実施枠が「２日間で４公演をクラス単位で実施」という枠であるためと拝察したが、『小出郷文化会館』としては頭を悩ませた結果だったに違いない。

本事業を実施なさる他の会館さんにとっても悩ましい問題だと思う。OR受入先の学校がなかなか手を挙げて下さらない時ももちろんだが、手を挙げて下さった学校が実施枠を超えてしまった時は本当に頭を悩ませることだと思う。

【実地研修】

地域創造での「実地研修」は１泊２日で行うのを基本としているが、演奏者のスケジュールが２日間連続して確保できる日程が無かったため10･11月に１日ずつ実施することになり、全員が首都圏在住だったので東京で行ったが、結果として２回に分割して「実地研修」を行ったことが良かったように思う。

その理由１点目は、『川田チーム』は座間市での事業も担当するため10月の「実地研修１日目」は『魚沼・座間両チーム』の合同で行ってOR試演プログラムへの意見を出し合えたこと。

そして２点目、１回目を踏まえて11月に『魚沼チーム』として「実地研修２日目」を行うスケジュールは、２日連続で怒涛のように「実地研修」を行うスケジュールとは異なり、アーティストが「方針や手法を温める期間」を１ヵ月持つことができたことだ。

又、１回目と２回目の間の10月下旬に『小出郷文化会館』姉崎さんからボイスメッセージ（VM）の依頼があったが、『川田チーム』は「実地研修１回目」を踏まえて親しみを感じる良いVMを作ってこれに応え、OR実施校に配布するプロフィールと併せ良い宣材を提供した。VMは魚沼のFM放送で流され、事前に『川田チーム』の人柄を伝えて頂いたことは多面的な効果を期待できた。

【ORの実施】

２日間の「実地研修」を経た『川田チーム』は良いプログラムを作り上げORに臨んだが、『小出郷

文化会館』もスタッフさん総出でバックアップして下さりそれに応えて下さった。実は、中学校でのORで学校側が会場として選んだのは同校の広い和室であったが、箏が立奏台を使用して演奏する際に「畳」の弾力が問題であった。そこで会館の舞台スタッフさん方が「コンパネ」を持ち込みガムテープで連結固定し、演奏者が何の不安も感じずにORプログラムに集中出来るよう「箏のための演奏スペース」を和室に設営して下さった。

『川田チーム』は子ども達がFM放送のVMを聴いた可能性も踏まえ、親しみやすく手を振りながら登場して来て子ども達に構えさせること無く「身近なお兄さん・お姉さんが学校に来た」という印象からORを開始した。モニターを使い風間がページターナーを使ってスムーズにスライド進行を進めながらプログラムを進めたが、非常に良かったのは「三択クイズ」で子ども達とやり取りした内容だった。

「三択クイズ」はコミュニケートツールとして使われることが多いと思うが、残念なのは「正解者と不正解者」がどうしても生れてしまうことだ。しかし『川田チーム』は、谷富が箏の紹介で《箏曲 千鳥の曲》を演奏する前に、あえて曲名を伏せて３つの選択肢（千鳥・波・海の風景）の全てが正解となる「三択クイズ」を行い、演奏後に「音楽の感じ方は人それぞれで良い。一人一人が自分なりに感じることが大事。」と伝えた。これは音楽を鑑賞してもらう時に伝えたい「とても大切なメッセージ」だと思う。

印象的であったのは、23年３月で閉校となる魚沼市立入広瀬小学校でのOR終了後、『川田チーム』が同校の校歌をアンコールとして演奏したとき、児童生徒の皆さんと先生方全員で一緒に校歌を歌って下さったことだ。『小出郷文化会館』は入広瀬小でのORはマストと位置付けていたのではないかと拝察した。

又、ORを鑑賞してくれた各校で児童生徒が感想を発表してくれる中、「カッコ良かった！」と発言した児童がいた。魚沼から将来の邦楽器奏者が生まれてきてくれるか？と期待したくなるエピソードだった。

【HPの実施】

HPの第１部では金屏風に緋毛氈の舞台で古典曲中心のプログラムを組み、第２部では趣を変えての現代曲プログラムであった。ここでも事前に流して頂いたボイスメッセージのイメージを踏まえ、第１部の古典プログラムのステージから親しみやすいMCでコンサートを進行させていた。これがプログラム終了後のカーテンコールの拍手が会場一体の手拍子に変わって行った「コンサートの雰囲気作り」にも影響したように思う。

ちなみに『川田チーム』はORもHPもプログラムの最後に《エルサルバドル》という作品を持ってきたが、これは東京で行われたプレゼンで『川田チーム』のこの曲の演奏を聴いた『小出郷文化会館』の姉崎さんが「この曲をやって欲しい。」と手を挙げて下さったことを受けての構成。本事業実施の契機になった作品で締めくくるこの構成は「邦楽器（邦楽奏者）の今」をも伝える内容だった。

【振り返り】

終演後の「振り返り」に桑原館長が他の会合から駆け付けて下さったが、館長から伺って興味深かった話を２つ。

１つ目は、ご来場のご婦人のお客様の「学校で聴いたコンサートが良かったから土曜日のコンサート

に行った方が良いと中学生のお孫さんに勧められて来た。」という話だった。その中学生自身は来場しなかったようだが、間接的にORからHPへの集客につながったこの話は興味深かったし、ORを聴いてくれた中学生が自分の祖母にコンサートを勧めるくらいORを楽しんでくれたことを知り嬉しかった。

２つ目は、会場に小学生の兄弟がお母様と来ていたことをたずねてみると、会館が行っている色々なワークショップやレクチャーに参加している常連兄弟君だそうで、お母様のお考えや方針ももちろんあるだろうが『小出郷文化会館』が「リージョナル・カルチャーハブ」として積み上げて来ている「事業の蓄積」を知る話でもあった。

アウトリーチ進行シート（新潟県　魚沼市）
木ノ瀬　佳子（アシスタント）

実施日	令和４年11月25日
実施先	魚沼市立広神中学校
対象・実施先の情報	１年２組の27名を対象に、校内の和室にて実施。 画像が表示できるよう、テレビモニターを設置。 次の時間に行う予定だった１組は新型コロナウイルス感染症の流行で学級閉鎖をしていたため、この授業をZoomで配信した。
出演者	川田健太（箏・三味線）、谷富愛美（箏・十七絃）、風間禅寿（尺八）
ねらい／目標	邦楽器の生の演奏で、邦楽器の様々な表現を体感してもらう。

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
0：00	魚沼市小出郷文化会館の姉崎さんより挨拶 出演者の呼び込み （１分）	みなさんこんにちは。今日は魚沼市小出郷文化会館から素敵な演奏家３人をお連れしました。箏と三味線と尺八の演奏になります。演奏家の皆さん、よろしくお願いします。	出演者、教室の外から手を振りながら入場。お辞儀をして、早速演奏へ。
1：00	M1　紅蓮華（２分）	演奏：川田（箏）、谷富（十七絃）、風間（尺八）	
3：00	挨拶・自己紹介 （１分）	川田：みなさんこんにちは。 箏、三味線、尺八の生の音を届けにきました。ぜひ耳で聴いて、体で感じてもらえたら嬉しいです。 それでは自己紹介させてもらいます。箏と三味線を担当する、カワケンと呼んでください、川田健太です。 谷富：箏と十七絃を担当する谷富愛美です。トミーって呼んでください。 風間：尺八を担当する風間禅寿です。ゼンゼン、ゼンくん、ゼンちゃん、好きに呼んでください。	モニター：それぞれの自己紹介に合わせて、名前、愛称、担当楽器の画面を表示。
4：00	楽器紹介 （７分）	風間:それぞれの楽器を紹介。まずは尺八。竹でできている。みんな筍食べるよね？あれを取らずに育てるとこうなる。筒状になっていて、穴が前に４つ、後ろに１つ。尺八の長さによって音がどう違うか吹き比べてみよう。 川田：次は三味線です。棹、糸巻き、胴の紹介。糸巻きと撥は象牙で、胴には猫の皮を張っている。 谷富：箏は桐でできている。みんなの家にも桐の箪笥があるかな？ 13本の絃が張ってある箏と、名前の通り17本の絃が張ってある十七絃がある。箏は180cm、十七絃は２ｍある。絃を支えているものが柱で、柱と爪も象牙でできている。十七絃は楽器も柱も大きく、絃も太いので低い音が出る。柱を動かして音程を変える。（川田が柱を移動しながら音を鳴らして、音の変化を実演。） 邦楽器は動物や自然の素材をたくさん使っている。	尺八：生徒たちに楽器や穴の数を見せる、長短２本の尺八を吹き比べる。 三味線：モニターに撥の画像を表示。谷富・風間で十七絃を移動し、三味線の演奏セッティング。 箏：風間が箏と十七絃を立てて生徒に見せる。柱・爪の話の時に画像をモニターに表示。川田は次の演奏のために箏を入れ替える。
11：00	連想クイズ （４分）	川田：楽器自体にも動物や自然のものがたくさん使われていたけれど、表現の中にも自然のものがたくさんある。 連想クイズをしてみよう。第一問。箏のこの音、ヒグラシかミンミンゼミかどちらのセミの鳴き声でしょう？（演奏・どちらだと思ったか挙手してもらう）正解はヒグラシでした。 風間：第二問。次は鳥の二択で、ツルかキツツキかどちらでしょう？（演奏・どちらか挙手してもらう）正解はツルでした。どちらもあまり聴いたことがない鳴き声だったと思うけど、結構似ているから帰ってからYouTubeとかで検索してみて。	谷富：ハケる。 モニター：連想クイズの選択肢を表示。 川田：箏でセミの鳴き声を実演。 風間：尺八で鳥の鳴き声を実演。
15：00	MC（１分） M2　八千代獅子（３分）	川田：次は人間の心を表現した曲。獅子舞って見たことある？お正月とかに出てきて、噛まれると幸運になる。幸せな気持ちを描いた曲を演奏するから、昔の人がハッピーな気持ちを三味線と歌で表現したらどんな曲になるか聴いてみて。 演奏：川田ソロ（三味線） 川田：演奏曲は八千代獅子でした。	風間：ハケる。 川田：三味線を持って中央へ。 モニター：獅子舞の画像を表示。 演奏後、八千代獅子の曲名・作曲者を表示。

19：40	MC（２分） M3　千鳥の曲（５分） MC（1分半）	谷富：次は風景や情景を表現した曲。ここでもみんなに参加してもらいます。連想クイズで、千鳥、波、海の３択です。この３択のうち、何が表現されていたと思うか考えながら聴いてみてください。 演奏：谷富ソロ（箏） 谷富：（何が表現されていたと思うか挙手してもらう。）なんと今の曲には全部入っていました。みんな正解です。ちなみにタイトルは「千鳥の曲」でした。それぞれ感じ方が違ったと思うけど、音楽はそれで良い。自由に感じ取って聴いてほしい。	川田：ハケて三味線を置く。 谷富：MCのため中央へ。 川田・風間：箏のセッティング。 モニター：連想クイズに合わせて、千鳥、波、海の３択の画像を表示。 演奏後、千鳥の曲の曲名・作曲者を表示。
27：00	ストレッチ （１分30秒）	風間：次の曲に行く前に体操をしよう。リラックスして聴いてほしい。	風間：生徒を立たせて簡単なストレッチをする。 川田・谷富：次の曲の調絃。
28：30	MC（１分30秒） M4　越後獅子（８分）	風間：次の曲は越後獅子。みんな越後って知ってる？ここ新潟のことだね。獅子はさっきと同じ獅子舞。越後国の獅子舞の踊り手が東京、当時の江戸で踊って大スターになり、箏・三味線・尺八の曲ができた。今度は3人で演奏するから、どんな風に音が混ざっているか聴いてみて。 演奏：谷富（箏）、川田（三味線）、風間（尺八）	モニター：越後獅子の曲目・作曲者を表示。
38：00	MC（２分30秒） M5　エルサルバドル （４分）	風間：みんなどうだった？後半はノリノリだったでしょう？次の曲はエルサルバドルです。知ってる？国の名前で、ブラジルに近い国です。今までは100年、200年前の古い曲をやってきたけど、今度は最近書かれた曲です。日本ではなくエルサルバドルという国がテーマのノリノリの曲。越後獅子とはまた違ったノリノリを楽しんで。 演奏：川田（箏）、谷富（十七絃）、風間（尺八）	モニター：エルサルバドルの曲名・作曲者を表示。 川田・谷富：箏と十七絃のセッティングをして調絃。
44：30	挨拶（１分30秒）	川田：箏、三味線、尺八の楽器毎の様々な音色や、曲毎の様々な音色があったと思います。それを感じ取ってもらえていたら嬉しいです。本日はありがとうございました。 最後に宣伝ですが、明日演奏会があります。面白い曲をたくさん用意しています。演奏の後は箏の体験もあります。カワケンとトミーが教えますのでぜひ来てください。	楽器の前に３人並んで挨拶。 演奏会の宣伝の時に姉崎さんがポスターを持って登場する。

実施団体：鉾田市・鉾田市教育委員会
実施時期：令和４年12月８日（木）～令和４年12月10日（土）
出演アーティスト：藤重奈那子（箏・三絃）　町田夢子（箏・三絃）　吉越瑛山（尺八）

アクティビティ

タイトル：和楽器の世界～箏・三味線・尺八でおしゃべり!?～
期　　日：令和４年12月８日　11：30～12：20
会　　場：鉾田市立大洋中学校　音楽室
参 加 者：３年１組　30名

年頃の生徒達を対象としたアウトリーチであったため、反応をしてくれるのか一抹の不安を抱きながらの実施となったが、その不安はすぐに解消される結果となった。掴みとして導入した校歌の演奏は効果覿面で、口ずさむ生徒が多々見受けられた。終盤に演奏する「尾上の松」を聞かせる下地を箏・三味線・尺八それぞれの説明と音を説明することで養い、歌詞を掲示することで終了時間まで邦楽の世界に浸る生徒の姿を見ることが出来た。

タイトル：和楽器の世界～箏・三味線・尺八でおしゃべり!?～
期　　日：令和４年12月８日　13：25～14：15
会　　場：鉾田市立大洋中学校　音楽室
参 加 者：３年２組　30名

１回目と同様の構成で、校歌の演奏、中学時代の部活動などエピソードを加えたアーティスト自己紹介、現代曲による楽器紹介と奏法説明を行った後、生徒との掛け合いによる場作りをした。「尾上の松」を演奏するときの奏者の心情を言葉によって演奏しながら実演することで、生徒が曲に集中して入り込むことが出来、終了後には凄いと言った声や、最後の質問コーナーでは何人もの生徒が手を挙げるほどの反応であった。

タイトル：和楽器の世界～箏・三味線・尺八でおしゃべり!?～
期　　日：令和４年12月９日　９：20～10：05
会　　場：鉾田市立鉾田北小学校　音楽室
参 加 者：３年１組　33名

学校との折衝の末、音楽室での実施となり児童との距離感も最高のかたちを取ることが出来た。校歌演奏から始まり、児童達へ驚きと親しみを印象付けてのスタートとなった。アーティストが大学の同級生同士で仲良しなことを話すことで、児童たちとの距離感を身近なものにすることが出来た。奏法紹介では、一緒に参加するコーナーを設けたため、児童達は初めて聞く演奏に終始表情豊かに刺激を受けている様子が感じ取れた。

タイトル：和楽器の世界～箏・三味線・尺八でおしゃべり!?～
期　　日：令和４年12月９日　10：30～11：15
会　　場：鉾田市立鉾田北小学校　音楽室
参 加 者：３年２組　33名

校歌演奏、自己紹介、楽器・奏法紹介から「尾上の松」という基本的な概要は他アクティビティと同様に実施をした中で、特に演奏した「明鏡」では、聞き手側に曲のポイントを分かりやすく説明したことで、頷きながら聴いている児童が多く見受けられ、何かを感じ取ってもらいたいという思いが伝わったと感じた。終了後には、「ずっと聴いていたい」「私も習ってみたい」という言葉が子ども達から発せられていたことが印象深い。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：ほこたでほっこり。和のしらべ
～箏・三味線・尺八コンサート～
期　　日：令和４年12月９日　14：00～15：30
会　　場：鉾田市立大洋公民館　大集会室
参 加 者：121名

「原点にして頂点」という表現をしたくなるような内容の構成となった。公演を通しての座奏や、ナチュラルな照明によって織り成す美しさと切ない雰囲気に、皆が邦楽の世界へ誘われている様子であった。十七弦と箏による「瀬音」や、二部で冒頭に演奏した「岩清水」での客席後方からのサプライズを駆使することで、メリハリあるプログラムとなった。MCでは鉾田市滞在中のエピソードを語ることで、「ほっこり」とする一幕もあった。

ホール担当者の意見・評価
鉾田市立鉾田中央公民館　槐　彰一・佐伯　友弥

①　応募の動機・事業のねらい

市の直営で運営する公民館という特徴のある当館では、定期的な異動がある一般行政職しかおらず、文化芸術事業を運営していくノウハウが蓄積されにくいという環境であった。そのような環境下においても、市民に文化芸術に触れる機会を創出していくことは重要と捉えており、様々な公演やアウトリーチを実施している。

今回、当事業を活用することによって、企画・運営に係る様々な知識を享受し、これまで縁が遠かった「邦楽」を学ぶことで、今後の事業企画・運営に活用するため応募した。

②　企画のポイント

アーティスト同士が大学の同級生であり、とても仲の良い３人であることから、３人の仲の良さと演奏での阿吽の呼吸が感じられるような構成を重視した。

アウトリーチでは、次代を担う子ども達が生の演奏を聴くことで普段の学校生活では感じることの出来ない何かを掴み、心に響くプログラムとすることを目指した。

ホール公演では、本格的な邦楽公演が初開催となることから、流行りの曲等での演奏を控え、近代曲･古典曲織り交ぜた王道なプログラムを組むことで、日本の伝統音楽である邦楽に触れる機会の創出及び地域住民の邦楽に対する反応が分析出来るよう企画した。

③　企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

地域創造の事業趣旨の認識不足により、スタッフの皆様には大変ご迷惑をかけてしまった。これに端を発し、コンサートタイトルやコンセプトの決定に時間を要し、チラシの製作などに多大な時間を費やしたこと。

五月雨式にアウトリーチ先への確認事項が出てきたことで、アウトリーチ先へかなり負担をかけてしまったこと。

邦楽には、どのようなアウトリーチ・公演のやり方があり、それぞれどんなメリット・デメリットがあるのか不明であったため、企画を考えていく上でイメージがつかず、不安が多くあったこと。

④　上記③をどのようにクリアしたか

コーディネーター･サブコーディネーター､地域創造スタッフの皆様とオンラインミーティングやメール等で情報共有を図り、的確な指示をいただくことで、一つ一つ問題をクリアしていくことができた。不明な点や不安なところもスタッフの皆様に丁寧に教えていただき、徐々に解消されていった。

⑤　事業を実施しての成果

事業企画・運営をする上で重要な心構えやタスクを数多く学べたことが最大の成果である。
また、アウトリーチ先での子ども達の反応や、ホール公演のお客様からの反応を見たことで邦楽が秘める可能性を感じられたことが良かった。

⑥　事業を実施しての反省点・課題

当館がどのような思いで、どういった企画にしていきたいのかということを事業実施当初に明確に打

ち出せなかったことがもっとも反省すべき点であり、事業の根幹となる部分なので今後はしっかりとしたビジョンを持って企画していきたい。

また、本事業の他に計画した公演やアウトリーチの日程が集中してしまったことで、こちら側のレスポンスが遅れてしまい、アーティスト・コーディネーター・サブコーディネーターの皆様にタイトなスケジュールを強いてしまったこと、それでもご協力頂いたことに感謝を申し上げると共に、反省点として是正していきたいと思う。

⑦　今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

今回の事業を通して「チーム鉾田」の皆様から言われなければ絶対に気が付かなかったことは、当館での事業は、いつも楽しみに応援していただいている暖かいファンの方と、事業に携わる様々な方に支えられ、「ほっこり」出来る「場」を創出出来ているということであり、今後はより一層感謝の気持ちを持って推進していきたい。

また、専門的なスタッフがいないというデメリットを大きく捉えるのではなく、当館職員自体が教育委員会所属であるというメリットを生かした企画を手掛けられるよう心掛けたい。

当館での公共ホール邦楽活性化事業はこれにて終了となるが、これが当館での邦楽事業の「始まり」であると使命感を持って、継続した事業としていきたい。

最後に、何から何までご教授いただいたコーディネーターの谷垣内さん、アーティスト、地域創造の皆様、特に皆を繋げて頂いた大久保さんに感謝をお伝えすると共に、今後の当館での邦楽事業の行く末を期待し、見守って頂けるよう願っている。

コーディネーターレポート
谷垣内　和子

「日本でいちばん野菜をつくるまち」をキャッチフレーズにする鉾田市は、関東平野の東端に位置し、太平洋に昇る日の出を拝するのに絶好のロケーションだ。とりわけメロン栽培が有名で、夏場になると都内では鉾田メロンを使ったスウィーツのデジタルサイネージが展開されているのに、今さらのように気づく。今回は、常磐線の土浦駅から車で１時間ほどの場所にある鉾田市立大洋公民館が拠点である。

■初めて尽くしの取り組み

本事業初のオーディションで選ばれた登録演奏家の藤重奈那子さんをリーダーとするチームは、東京芸術大学邦楽科で学部から大学院までの時間を共に過ごしてきたメンバーから構成された。藤重さんと町田夢子さんは生田流箏曲を、吉越瑛山さんは都山流尺八を専攻。大学院を修了したばかりのフレッシュな顔ぶれだ。鉾田市が、この事業における藤重チームのデビューの地となった。

同市では2017年度に「公共ホール音楽活性化事業」を実施したことがあり、翌年には　Dual KOTO × KOTOの公演も行われている。しかし、担当のお二人は４月に着任したばかりで、企画制作面での経験が浅いことを心配されていた。アーティストもスタッフも初めて尽くしのなか、手探りでのスタートとなった。

■既存事業の枠組みとの狭間で

大洋公民館は、組織としては教育委員会の直下にある。教育現場とのやりとりがスムーズなのが強みだ。毎年、市内の小中学校へアーティスト派遣事業を展開しているという。その一環で、邦楽を希望した大洋中学校での実施を予定していた。最もオーソドックスな三曲合奏という選択も、同校の先生のご希望に配慮したものだったらしい。

ただ、この事業では、多様な環境で実施することによってプログラムの汎用性を広げ、いろいろな体験機会の充実を図ることも大切である。できれば単一校のみで完結することは避けたい。その時点で双方の目論見に少しズレがあった。最終的に鉾田北小学校でも実施することになったが、調整にはご苦労をおかけしたのではないか。心が痛む。

12月８～10日の実施を目指して、７月上旬に第一回オンライン会議を開催。８月下旬には、やはりオンラインでアーティスト全員を交えた顔合わせを行った。９月半ばに現地下見。11月半ばに都内で実地研修を行い、アクティビティ・プログラムを練った。それぞれの経験値が計りきれないなかでの協働作業では、きめ細やかなスケジュール管理と関係者全員の情報共有は必須である。サブコーディネーターの大久保さんの粘り強く丁寧なフォローにどれだけ助けられたことか。感謝にたえない。

■アクティビティについて

アクティビティ・プログラムは、「和楽器の世界～箏・三味線・尺八でおしゃべり!?」と題した。３種類の楽器の組合せを変えて、合奏する面白さや互いに反応し合うライブ感を伝えたいという藤重さんの思いがこめられている。たくさんの候補曲とプランのなかから、アーティストがイチバン伝えたいことは何か、イチバン自信のある曲は何か。鉾田市の担当者も交えて意見を出し合うなかでテーマの絞り込みを行い、方向性が定まって行った。改めてこうした時間の積み重ねの大切さを思う。

大洋中学校は公民館と道を隔てた反対側に立地する。学校に準ずる施設のような感覚で鑑賞の場として利用されているらしい。公民館での実施を希望する声もあったが、学校内で行う趣旨をご理解いただ

き、音楽室での実施となった。もう一つの鉾田北小学校は、自由な空間設計が魅力の校舎で、広々とした音楽室がユニークだ。子どもたちも反応が良く、「和楽器って何ですか?」「わぁキレイな音」等々、賑やかな声が飛び交った。

両校とも最初に箏・三弦・尺八で校歌を聴かせた後、楽器紹介を挟みながら、《三つのパラフレーズ》《明鏡》《尾上の松》を取り上げた。《三つのパラフレーズ》では、コロリン、ツルツル、シャシャテンという口唱歌が表す箏の手法を知り、それらを手がかりに曲を追ってみる試み。《尾上の松》では歌があることをアピールした上で、三弦のチンチーンに対して、箏がツンツーンと返答するシーンを紹介。それぞれの楽器同士が音でキャッチボールをする楽しさを伝えようとした。このチームならではの個性が際立つ。

小・中学生それぞれにQ＆A形式による演奏者紹介資料を作成。生まれた場所、血液型、いつから音楽を始めたか、なぜ箏（尺八）が好きなのかなど、子どもたちが興味を抱く工夫を凝らした。各人のSNSへ誘うQRコードを併記するのもイマドキ風だ。

■ホール公演について

タイトルは、「ほこたでほっこり。和のしらべ～箏・三味線・尺八コンサート」。プログラムは、《手事》《春の海》《八千代獅子》《瀬音》と続けた後、休憩をはさんで《岩清水》《明鏡》《尾上の松》の構成。それぞれの楽器のソロと編成を異にする二重奏を取り混ぜて並べ、最後に三曲合奏を置くラインナップだ。休憩後の尺八ソロは客席後方で演奏する演出も行った。

会場となった大洋公民館の大集会室は、ロールバック方式の客席で収容人数308名。通常の半分を使用して、全席指定とした。チケットは１週間もしないうちに完売したという。邦楽への潜在的なニーズがあるのかもしれない。期待が高まった。当日は年配の方が多かったが、古典から近・現代曲まで、性格の違う楽曲が並ぶプログラムと、若いアーティストたちの一所懸命さが好意的に受け止めてもらえたように感じる。

下見の際に平台や毛氈の不足が判明。舞台転換はあまり手をかけずに進める方法を考えた。音響スタッフは依頼せず、照明だけを外注。いつも問題になる楽器運搬は、東京から約90kmという地の利を生かして、都内の楽器屋さんを手配し、演奏会当日の舞台周りのサポートもお願いした。事前に曲目・転換等の情報のとりまとめが必要となったが、むしろ全員が当日の流れや動きを共有するためには好都合だった。

■今後に向けて

既存の学校派遣事業との関係性や配布物の仕様など、現地の事情について理解が及ばないところがあったように感じる。担当のお二人をはじめ公民館の関係者の方々は誠心誠意対応してくださったし、子どもたちの反応を目に当たりにして、この事業の意義と手応えを納得してくださったと思う。けれども、今回の経験を活かせば次回は心配ないと思ってくださっているか、もう一度同じプロセスをたどるのは少々荷が重いと感じていらっしゃるか。どちらだろうか。いささか心許ない。けれどもアーティストとの縁をきっかけに、鉾田ならではの邦楽体験機会の拡充につなげていただけたらとても嬉しい。

一方において若いアーティストたちの多忙さも予想をはるかに超えていた。プログラムの進行台本をはじめ、舞台図面や照明の希望等を共有するための素材づくりからチラシやプログラムのレイアウトに至るまで、細々とした作業が秋の繁忙期と重なり、関係者それぞれにタイトなスケジュールのなかで無理を強いることになった。けれども、彼らの優れたマルチタスク能力のお蔭で、舞台はスムーズに進んだ。このプログラムをさらにブラッシュアップし、どのようなシーンでも柔軟に適応できるチームになってくれると確信している。

アウトリーチ進行シート（茨城県　鉾田市）
大久保　真利子（サブコーディネーター）

実施日	令和４年12月９日
実施先	鉾田市立鉾田北小学校
対象・実施先の情報	３年を対象に音楽室にて２コマ実施（２クラスとも33名）。
出演者	藤重奈那子（箏、三味線）、町田夢子（箏、三味線）、吉越瑛山（尺八）
ねらい／目標	アウトリーチのタイトルを「和楽器の世界～箏・三味線・尺八でおしゃべり !?～」とし、個々の楽器の魅力だけでなく、合奏や演奏者同士のかけあいの面白さを伝える

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
【セッティングなど】 ・事前にA5サイズのチラシを配布（表にはタイトルや日時、裏には演奏者プロフィールと共通のQ&A） ・スライド式のホワイトボードの片面に、タイトル、演奏者名、楽器のイラストを書き、入場時は隠しておく ・舞台面下手に曲名を書いたパネルを譜面台に置いて準備			
0：00	入場	担任の先生による紹介、拍手での呼び込み	演奏者入場
1：25	M1（１：25） 《鉾田北小学校校歌》	藤重（三味線）、町田（箏）、吉越（尺八）	
2：50	MC1（13：00） 藤重：オープニング	いま聴いた曲知ってるかな？そう、校歌！ 箏、三味線、尺八、三つの楽器を持って来た。今日のタイトルは……「和楽器の世界～箏･三味線･尺八でおしゃべり!?～」。楽器同士でのおしゃべりに注目してほしい。 最後に「推し」の楽器を質問するので、好きな楽器を考えながら聴いてほしい。	吉越：ホワイトボードに書いたタイトルを見せる
	全員：自己紹介	※内容：少しだけ楽器を演奏したあと名前紹介。担当する楽器や出身地、小学校時のエピソード、呼び名（ななちゃん、ゆめちゃん、えいくん）など。	
	町田：箏の紹介	箏の紹介。大きいよね。何㎝くらいあると思う？ 180㎝くらいある。桐で出来ていて、13本の弦が張ってある。裏は空洞（裏面を見せる）。 弦には琴柱が立っている。動かしてみる(調弦)。音が変わっているのわかる？琴柱は曲の途中でも動かすことがある。	吉越：箏を前面に立てて持つ 藤重・スタッフ：三味線をハケて、箏の立奏台などをセッティング
	藤重・町田：次曲紹介と解説	次の曲は《三つのパラフレーズ》。調弦が異なる２台の箏で演奏する。最初の部分を少しだけ演奏する（実演）。 三つのフレーズが出てくる。フレーズは言葉で言うこともできる。「コロリン」「ツルツル」「シャシャテン」。 これら三つのフレーズが組み合わさったり、違う動きをしたりする（実演）。私がコロリンを４回やったら、ななちゃんが５回目から合流してきたよね？みんなでやってみようか（町田の後５回目からコロリンを４回声を揃えて言ってみる）。 コロリンやツルツルなどを探しながら聴いてほしい。	藤重：演奏位置につく 町田：曲名パネルをめくる 町田：各唱歌のパネルを見せる
14：25	M2（４：40） 《三つのパラフレーズ》	藤重（箏）、町田（箏）	
19：05	MC2（６：25） 吉越：尺八の解説と次曲紹介	コロリンとツルツルとシャシャテン、見つけられたかな？ 次は尺八と三味線の曲。まず尺八について。穴は何個あると思う？答えは5個。尺八はあごを使って音を変える（横向きで歩きながら実演）。竹でできていて節を抜いただけの単純な構造だけど、いろいろな音が出るおもしろい楽器。	藤重・スタッフ：箏を１面はける
	町田：三味線の紹介	三味線はこんな楽器。尺八とは全然ちがうよね？ 三味線には長い棹があり、太鼓みたいに表裏に革が張ってある。右手に持った撥で自分のお腹をポンポンと叩くように打つ。撥の黒い部分は亀の甲羅で作られている。 尺八は音が伸びるが、三味線は余韻がすくない。震えるような音が出るのも特徴のひとつ。	

	町田・吉越：次曲紹介	次の曲は《明鏡》。三味線と尺八の曲。 町田：お友達同士でもどういう性格かお話するよね？えいくんはとても穏やかな性格。《明鏡》もゆったりしたところから始まるが、私が「いくぞ！」ときっかけを出したら、えいくんはキレキレのカッコイイお兄さんに変身する。 吉越：ゆめちゃんは優しくておっとりしてるんだけど、本当はキレキレの面もある。曲中での二人の変身ぶりを楽しみにして聴いてほしい。	藤重：曲名パネルをめくる
25：30	M3（3：50） 《明鏡》	町田（箏）、吉越（尺八）	
29：20	MC3（6：23） 吉越：次曲紹介	これまでは新しい曲､最後は少し古い曲。曲名は《尾上の松》。兵庫県にある尾上神社にある松が題材。松はすごく長生きで、松のように平和な世の中が長く続きますようにという願いが込められた曲。 次の曲は歌が入る。最初「やらやらめでたや」の部分を少し聴いてほしい（藤重が実演）。	藤重：曲名パネルをめくる
	藤重：実演	最初の歌詞は「めでたい」を昔風に言っている。歌の語尾に装飾が入る。みんなで声を合せて歌ってみよう（「やらやらめでたや」を合唱）。	吉越：ホワイトボードに冒頭の歌詞「やらやらめでたや」と書く
	町田：演奏中の対話について解説	今日のタイトルに「おしゃべり」とある（三味線と箏・尺八の掛け合いを実演）。 ななちゃんの音に対して、私とえいくんが応えていたの分かった？「ねえねえ」「なあに？」とか「調子どう？」「めっちゃイイ感じ！」というように、心の中で会話をしている。曲中でのおしゃべりの様子を楽しみながら聴いてほしい。	
35：43	M3（7：25） 《尾上の松》	藤重（三味線）、町田（箏）、吉越（尺八）	
43：08	藤重：エンディング （1：33）	３人のおしゃべりの様子を感じられたかな？ 「推し」の楽器見つかった？好きだなと思った楽器に手を挙げて。全部に手を挙げてもいいよ。 もうすぐお正月。和楽器の音を聴くこともあると思う。その時に今日のことや「推し」の楽器の音を思い出してほしい。	
44：41		児童全員による挨拶、担任の先生による挨拶、拍手での送り出し	演奏者退場

実施団体：一般財団法人大館市文教振興事業団
実施時期：令和５年１月19日（木）～令和５年１月21日（土）
出演アーティスト：藤重奈那子（箏・三絃・十七絃） 町田夢子（箏・三絃） 中島孔山（尺八）

アクティビティ

タイトル：口ずさめる和楽器の音
期　　日：令和５年１月19日（木） 10：25～11：10
会　　場：大館市立桂城小学校　会議室
参 加 者：５年生34名

「口ずさめる和楽器の音」をテーマに、和楽器の演奏を聴くだけでなく、子供たちと一緒に楽器の音を口ずさみながら、和楽器のおもしろさを感じてもらえるようなプログラムとしました。

比較的子供たちの人数が多く、散漫になるのではないかと心配しましたが、普段見ることのない和楽器の世界に興味津々で、最後まで集中してプログラムに取り組んでくれました。

タイトル：口ずさめる和楽器の音
期　　日：令和５年１月19日（木） 13：50～14：35
会　　場：大館市立矢立小学校
参 加 者：５年生８名、６年生６名

「口ずさめる和楽器の音」をテーマに、和楽器の演奏を聴くだけでなく、子供たちと一緒に楽器の音を口ずさみながら、和楽器のおもしろさを感じてもらえるようなプログラムとしました。

今回のアウトリーチで唯一、座奏で実施しました。毛氈と障子屏風で子供たちには和の雰囲気を強く印象付けることができたアウトリーチとなりました。

タイトル：口ずさめる和楽器の音
期　　日：令和５年１月20日（金） 10：20～11：05
会　　場：大館市立釈迦内小学校
参 加 者：６年生35名

「口ずさめる和楽器の音」をテーマに、和楽器の演奏を聴くだけでなく、子供たちと一緒に楽器の音を口ずさみながら、和楽器のおもしろさを感じてもらえるようなプログラムとしました。

楽器のトラブルがありましたが、大きな影響もなく無事に終了しました。活発な子供たちで、口ずさむことを含めて非常に良いリアクションがあり、とても楽しい雰囲気のアウトリーチでした。

タイトル：口ずさめる和楽器の音
期　　日：令和５年１月20日（金）　13：55～14：40
会　　場：大館市立東館小学校
参 加 者：５年生11名、６年生17名

「口ずさめる和楽器の音」をテーマに、和楽器の演奏を聴くだけでなく、子供たちと一緒に楽器の音を口ずさみながら、和楽器のおもしろさを感じてもらえるようなプログラムとしました。

子供たちはとても素直で反応も良く、和楽器の音を聞くこと、一緒に口ずさむことを純粋に楽しんでくれている雰囲気があり、回数を重ねるごとに進行がブラッシュアップされたこともあって、とても良いアウトリーチになりました。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：やらやらめでたや　新春コンサート
　　～箏・三絃・尺八～
期　　日：令和５年１月21日（土）　14：30～16：00
会　　場：ほくしか鹿鳴ホール（大館市民文化会館）
　　中ホール（capa＝414）
参 加 者：一般150名

和楽器の音色を体験し楽しんでいただくことをメインテーマとしたコンサート。１月という開催時期から、新春の慶びを「やらやらめでたや」のタイトルに込めました。邦楽の伝統的なところと現代的なところを混在させながら、ひとつの舞台として作品に昇華させるようなプログラム構成としました。

ホール担当者の意見・評価
大館市民文化会館企画管理課　山内　知生

① 応募の動機・事業のねらい

邦楽や和楽器は自国の伝統文化でありながら、子どもたちがそれに触れる機会が徐々に失われてきています。それは大館市でも同様であり、本事業をきっかけとして「邦楽や和楽器に触れる機会」を提供し、それに対する興味や関心を喚起することを目的とした事業にしたいと考えました。また同様に、当館及び当館スタッフにおいても邦楽に関する経験値が圧倒的に不足している状況を打破したく本事業へ応募いたしました。

② 企画のポイント

アクティビティについては、市内小学校へのアウトリーチとし、子供たちへのアプローチに主眼を置きました。内容としてはただの鑑賞会ではなく、子供たちが、邦楽そして和楽器の演奏家を知ることで、その世界がおもしろいと思ってもらえるような内容を心がけました。コンサートについては、邦楽を知らない人にも、純粋に「音楽」として楽しんでもらえるような舞台づくりをポイントとしました。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

苦労したという感じはあまりありませんが、ホールとして邦楽に関する経験値が不足していたことから、企画運営から、邦楽の演奏家の方々の舞台づくり、楽器の取り扱いや舞台の設えなど、すべてにおいて新鮮であり、良い経験をさせていただきました。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

コーディネーター陣、演奏家のみなさまとのコミュニケーションを重視し、すべて教えていただくつもりで事業に取り組みました。

⑤ 事業を実施しての成果

子供たちへ邦楽に触れる機会を提供できたことは成果として挙げられますが、当館及び当館のスタッフが邦楽の舞台を経験し、事業の企画運営に携わったことが最大の成果だと考えています。ホールのお客様に良いものをお届けするためには、ホールの人間がその面白さを学び、知り、楽しむことが最善と考えていますので、今回の事業においては一同素晴らしい経験をさせていだたいたと感謝しています。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

期待値よりも集客が捗らず、もう少し宣伝告知を工夫し集客に注力できたのではないかと反省しています。邦楽と直接関係の無い内容になってしまいますが、ホールとして事業を詰め込み過ぎていたこともあり、担当者からの資料提出が遅れたり、メールの返信が滞ったりしたタイミングがあったことは、ホールの事業運営としての反省点として捉えています。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

ホールスタッフの資質や経験などにもよりますが、ホールの事業にはやはりそのホールの得意分野があり、どうしてもその分野に偏っていきがちな面があると思いますが、今回の事業を通して、今まで触ってこなかったジャンルの事業を経験するということが、ホールにとっていかに大切なことなのかという

ことを改めて実感させられました。これからも、地域の人たちにとってより良いホールになるように、スタッフ一同勉強していかなければいけないと思いました。

コーディネーターレポート
谷垣内　和子

忠犬ハチ公の故郷として知られる大館市。「アキタケン」と言った途端に、「アキタイヌです」と静かに訂正されたのが心に残る。羽田空港から約70分のフライトで能代大館空港に到着する。そこから車で30分ほどの場所に大館市民文化会館がある。地元の清酒「北秋」の醸造会社である北鹿のネーミングライツから「ほくしか鹿鳴ホール」と愛称されている。秋田県北部に位置する大館を象徴するキーワードだ。きりたんぽ、比内地鶏、曲げわっぱetc.。美味しく、自然と共生する人々の知恵が脈々と息づいている。

■藤重チーム、２度目の取り組み

鉾田市での実施からほぼ１か月後の2023年１月19～21日、生田流箏曲の藤重奈那子さんをリーダーとするチームにとって２度目の取り組みである。メンバーは前回と同じ町田夢子さん（生田流箏曲）のほかに、新たに都山流尺八演奏家の中島孔山さんが加わった。中島さんもまた東京芸術大学での同級生という。準備は鉾田市と並行して進んだ。「遠距離」「雪」がカギになる。以下、本番までのスケジュールを振り返ってみる。

・７/10、第１回オンライン会議。日程・交通手段の確認、ホールが期待することと藤重さんのプログラム企画案・今後のスケジュール共有。冬場の移動は空路と陸路の両方を検討することに
・８月上旬、アウトリーチ先確定。現地下見の日程調整
・８/28、第２回会議。スケジュール確認。９/10、藤重さんからプログラム企画改訂版提示
・９/16、第３回会議。下見スケジュール確定。藤重さん企画説明。公演タイトル案を宿題に⇒投票・決定
・10月初旬、チラシとポスター案提示。約１週間後完成
・10/25･26､現地下見(空路)。ホールスタッフの方々と顔合わせ。10/26にはオンライン会議でサブコーディネーターの田中さん参加。情報共有
・11/19・20、都内で実地研修。児玉チーフコーディネーター参加、助言をいただく
鉾田市での実施をはさんで、12/20、年明けまでに各人がやるべきことの確認
・１/６、オンライン会議。往復路とスケジュール、楽器搬出入、舞台進行、配布資料等の再確認、諸注意共有

■アクティビティ・プログラムについて

４つの小学校で５・６年生を対象に学年別もしくは２学年合同で実施した。テーマは「口ずさめる和楽器の音」。日本の楽器特有の音色や奏法を口ずさむ伝統（口三味線、口唱歌）を通して、違う楽器同士でおしゃべりしたり、バトルしたりする邦楽の魅力に触れて欲しいという藤重さんの思いから生まれた。

導入は《春の海》。次いで三味線・箏・尺八の順に楽器紹介を交えながら、楽器ごとに「口ずさむ」例を紹介し、それらが含まれる《明鏡》《三つのパラフレーズ》《鶴の巣籠》を順々に聴く。三味線は二本の弦を一緒に弾く「シャンシャンシャーン」、箏は「コロリン」「ツルツル」「シャシャテン」、尺八では「コロコロリーン」を取り上げた。箏に比重を置いた展開はバランスが良く、口ずさんだフレーズを探しながら集中して聴く姿勢につながった。

終曲《尾上の松》では、三味線の「チリチリチーン」に対して、箏が「ツルツルツーン」と返す部分を紹介（尺八は箏に追随）。これを声だけでやってみる。演奏家が三味線パートを速度や音量・音高などを変えて唱えるのを受けて、子どもたちは箏パートを声に出して真似てみる。ゲーム感覚での口三味線による掛け合いから、演奏中のやり取りを疑似体験する試みである。最後は〝やらやらめでたや」の説明から、弾きながら歌う形式について紹介し、演奏を鑑賞して終えた。口三味線の活用シーンは改善

の余地はありそうだが、今後の展開に期待が高まる。大館市でもＱ＆Ａ形式を利用した演奏者紹介シートに各人のQRコードを付して配布した。

■ホール公演について

公演タイトルは、「やらやらめでたや　新春コンサート～箏・三絃・尺八～」。メインの《尾上の松》冒頭の歌詞を前面に出した。皆で知恵を絞ったタイトル案をもとに投票で選ばれた。インパクトとおめでたい感じ、フレッシュなアーティストの雰囲気が決め手になったように思う。プログラムは年明けにちなんで《春の海》で開幕。以後、《鳥のように》《鶴の巣籠》《明鏡》と続け、休憩をはさんで《瀬音》《八千代獅子》《尾上の松》。

ソロと少しずつ編成を異にする二重奏を経て、最後にオーソドックスな三曲合奏へと展開する流れである。近・現代の作品に比重を置いた前半に対して、後半は古典的な雰囲気に重きを置いた構成でもある。ステージの設えは立奏から座奏へと変化をつけ、曲ごとに照明も工夫を凝らした。訪問した小学校の児童が保護者とともに足を運んでくれたことも嬉しかった。

■アクシデントが新たな関係性に発展

楽器運搬は三味線と尺八は手持ちで、箏は演奏家それぞれに縁のある楽器屋さん経由で秋田市内の楽器屋さん宛に発送。十七弦と立奏台等は現地でレンタルすることにした。ここからホールと地域の楽器屋さんとの関係が生まれた。舞台転換はホールスタッフの研修の側面を重視し、演奏家から楽器や立奏台の扱い方の特訓を受け、本番に臨んだ。彼らにとっても大きな自信になったのではなかろうか。

２日目の授業中に、三味線の皮が裂けた！　普通なら目にすることのないアクシデントだ。子どもたちには忘れ難い体験になったと思う。今回は２人の演奏家がそれぞれに三味線を持参していたので進行に支障はなかった。しかし、予備の楽器がないなかで《尾上の松》を演奏するのは不安が大きい。ご縁が出来たばかりの地元の楽器屋さんに相談し、運良く舞台で使用できる地歌三味線の持ち主を紹介していただけた。実はホール担当者とは旧知の方だったと後で知った。新しい関係が広がっていく予感がある。

■結びにかえて

ほくしか鹿鳴ホールは、ここ数年来、「アウトリーチフォーラム」や「おんかつ」を通じてクラシックのアウトリーチやコンサートなどを実施してきた。その延長線で邦楽を取り上げる流れは、今後のモデルになるのではないかと期待する。担当の山内さんは経験豊富で、チラシ・ポスター、プログラム作成など、とてもスムーズに進行した。どちらかというと、若いスタッフに経験の場を提供することが今回のねらいだったように見受ける。

月に１回程度の頻度でオンライン会議を実施し、その時々の進捗状況を共有し、トピックスについて確認し、役割分担しながら進められたのも良かったように感じる。とくにサブコーディネーターの田中さんには、指揮者ならではの視点から細やかな心配りをいただいた。感謝にたえない。

現地下見は紅葉の季節。空路、秋田に入った。眼下に広がる八郎潟の形に感動し、美しい自然に圧倒された。翻って本番は雪のシーズン。安全策をとって陸路で現地入りすることにした。幸運にも私たちが大館入りする前週は稀に見る温かさだったそうで、移動等もスムーズに運んだ。どこの学校にも玄関先にスキー板が並び、校庭にはこんもりした小山があって、低学年の子供たちがスキーをしている風景が目に入った。個人的には普段体験したことのない雪景色に心躍る日々で、見るものすべてが実に新鮮だった。その一方で雪深い街でのホール運営の大変さの一端もまた窺い知ることが出来たような気がする。

アウトリーチ進行シート（秋田県　大館市）
田中　元樹（サブコーディネーター）

実施日	令和５年１月20日
実施先	秋田県大館市立釈迦内小学校
対象・実施先の情報	６年生35人（男18女17）　@第２音楽室　３時間目（10：20－11：05）授業45分
出演者	藤重奈那子（箏、三味線、歌）、町田夢子（箏、三味線、歌）、中島孔山（尺八）
ねらい／目標	～「口ずさめる」和楽器の音～［楽器紹介で和楽器の事を知ってもらい、唱歌を用いて実際にフレーズを口ずさんでみることで聴き方のきっかけを掴んでもらう］

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
0：00	導入	担任の先生： 今日は和楽器の演奏家の方にお越し頂いています。 それでは拍手でお迎えしましょう。 （拍手ー藤重＆中島入室）	担任の先生ー藤重＆中島入室
0：01	M1（１：00）	「春の海」（冒頭部分のみ演奏）	藤重（箏）中島（尺八）
0：02	MC1（７：00）	藤重： ありがとうございます。 今日、私たちは和楽器の演奏をしにやってきました。 ちなみに、今の曲聴いたことある人いますか？ （生徒何人かが手を挙げる） 何人かいますねー。お正月とかで聴いたのかな。 今演奏したのは「春の海」と言う曲です。この曲はお箏と尺八で演奏しましたが、今日は楽器がもう一つ、そして、もう一人の演奏家が来ています。 （拍手ー町田入室） 藤重：私は大阪出身。関西弁で喋っちゃうかも！ 町田：私は埼玉県出身。秋田に来るのは初めて、雪が綺麗！ 中島：私は福島県出身。秋田に来るのは初めて、食べものが美味しい、きりたんぽ食べました！ 藤重：私たちは藝大の同い年の同級生です。 それでは、本日のタイトル！ （隠れていた黒板をスライドして、手書きのタイトルを見せる） 今日は、「口ずさめる和楽器の音色」ということで、いろんな和楽器のフレーズを口ずさんでもらいながら進めていきたいと思います。 ではまず、三味線の紹介から。 （藤重ハケ） 町田： 三味線は３本の弦があります。 （一本ずつ弾いてみせる） じゃあ、一つフレーズを弾いてみるからみんな真似してみてね。 （フレーズ演奏） （生徒：それぞれ「ジャン」「テン」等言う） そうそう、みんなも知ってる曲を歌う時に「タンタカターン」とか言うみたいに口ずさむでしょう。ちなみに、私は今のフレーズを「シャンシャンシャーン」と思って弾いています。 （もう一度フレーズ演奏） （生徒：「シャンシャンシャーン」歌ってみる） 次の曲で使うフレーズなので聴いてみてね。 中島： 次の曲は三味線と尺八の曲です。 「明鏡」という曲です。聴いてください。	町田入室／自己紹介／藤重ハケ／三味線紹介／口ずさめる１［＊入り＆ハケは教室内の袖部分］
0：09	M2（４：00）	「明鏡」	町田（三味線）中島（尺八）
0：13	MC2（８：00）	町田： ありがとうございました。 「シャンシャンシャーン」分かった？ （大多数の生徒が「はい！」） 良かったです。では次はお箏の紹介をします。 （藤重お箏を抱えながら入りー舞台前へ／お箏を立てる／中島舞台前へ、お箏を支える）	

0：13	MC2（８：00）	藤重： お琴は180cmぐらいあります。 (生徒：オー) 私は157cmなのでだいぶ大きいですね。素材は木です。 (生徒から「何の木？」という質問の声が上がる) キリの木だよ。弦は何本あるかな？一緒に数えてみようね。 (中島お箏支える、藤重しゃがんで弦を弾きながら) (生徒：１、２、３、、、13) 選りすぐりの13本で音を作っています (お箏の裏を見せる) 裏側は穴が２つ、ギターみたいに空洞になってます。 (生徒：：音が反響するの？) よく気づいたね、そうなんです。ではこのお箏にたくさん付いてる白いものなんですが、、 (お箏の表を見せる) これが何なのかを夢ちゃんに見せてもらいます。 (藤重お箏をセッティング／中島ハケる) 町田： これは箏柱と言います。この箏柱を動かして音を変えています。次の曲になったら、その曲のためにこうやって動かして楽器の音を変えています。 (生徒：見えなーい) 見えなかったら立って見てくれていいよ。 (箏柱を動かして音を変えてみる) 次の曲は「３つのパラフレーズ」という曲です。一部分だけ試しに弾いてみるね。 (30秒程抜粋で演奏) 今みたいにスピードの速い曲です。この曲にも三味線と同じように口ずさめる部分が３つあります。 ではまず一つ目。 (フレーズ弾いてみる) 私はこのフレーズはコロリンと思いながら弾いています。 (生徒：「コロリン？」) せっかくなので弾いてみるから歌ってみてね。 (フレーズ弾いてみる) (生徒：「コロリンコロリンコロリンコロリンやってた！」) (フレーズ弾いてみる) (生徒：拍手) 曲の中で、私がコロリン×４とやったらななちゃんも同じ様にコロリン×４とやっているよ。じゃあ私ななちゃんと一緒に歌ってみてね、速いよ！ 「コロリンコロリンコロリンコロリン」 (生徒：「コロリンコロリンコロリンコロリン」) では２つ目。 (フレーズ弾いてみる) 私達はこのフレーズは「ツルツルー」と思いながら弾いています。 (生徒：笑いが起きる) お箏は普通こうやって弾くんだけど、このフレーズの時は後ろ側を引っ掛けてるので、「ツルツルー」と言っています。みんなも言ってみてね。 (フレーズ弾いてみる) (生徒：ツルツルー) うまく口ずさめたかな？ では３つ目。 (フレーズ弾いてみる) (生徒：それぞれ思ったままに口ずさむ) 私達はこのフレーズは「シャシャテン」と思いながら弾いています。 (生徒：？？？) 弾き方を見てくれると納得すると思うよ。 引っ掻くみたいに「シャー、シャー、とやってから、テンとやってるよ。」 (同じフレーズを音程変えて弾いてみる) (生徒：シャシャテン) 次の曲にはこの３つのフレーズが出てくるから聴いてみてね。弾いてる途中にもし言えそうだったら言っても良いよ！	町田（箏へ移動）／藤重入り／中島ハケ／箏紹介／口ずさめる２
0：21	M3（05：00）	「３つのパラフレーズ」	藤重（箏）町田（箏）

0：26	MC3（05：00）	藤重： ありがとうございました。 ３つのフレーズが、交互だったり、一緒だったりたくさん聞こえたと思うけど気づけたかな？ （生徒：はい！） 良かったです。三味線、箏で口ずさめたので、次は尺八の説明に移ります。 （町田ハケ／中島入りー舞台前へ、藤重ー舞台前へ） 中島： （尺八を二管持って） 尺八を今日初めて見る人？ （生徒：半分ぐらい手を挙げる、数人が「教科書で見てみたことある」） 尺八は竹でできています。天然の竹でできていて、本当に土から引っこ抜いてるんだよ。天然の竹だから、一個一個柄が違うんだけど、柄以外にこの二つの尺八は何が違うでしょう？ （生徒：長さ！色も違う） そうだね、長さが違うね！長さが違うと音も違うんだよ。 （二管の尺八を交互に演奏する、藤重サポート） 違いが分かったかな？ （生徒：高さが違う！） そうだね。尺八は穴が表に４つ裏に１つあります。 （生徒：リコーダーみたい！） そうそう、普通に吹くとこうだよ。 （音階を吹いてみせる） リコーダーと一緒で、穴の半分をふさいで吹くと半音になるんだよ。 （音階を吹いてみせる） （生徒：お化け屋敷みたい） 笑。実はそれ正解で、映画とかでこういうのを聴いたことないかな？ （ムライキを吹いてみせる） 藤重： 時代劇に出てきそうだね！ （生徒：ビブラートみたい！） すごいね、ビブラートを知ってるんだね。こうやって顔を揺らすのはその通り、ビブラートをするためにやってるんだよ。 藤重： カラオケなら加点ばっかりだね！では次の曲を教えてもらえますか？ （藤重ハケ） 中島： 次は尺八だけの独奏曲、「鶴の巣籠」という曲です。鶴の親子をイメージした曲で、本当は尺八演奏家2人で演奏するんだけど、今日は一人で演奏します。鶴はどんな風に鳴くのかな、と昔の人が考えて作ったフレーズがあって、それは「ハコロリーンコロコロコロリーン」というフレーズです。 （生徒：コロリンみたい！） そうだね、似てるね。こんな感じだよ。 （抜粋で演奏してみる） この鶴の鳴き声をイメージしたフレーズが出てきたら、鶴が鳴いているんだな、と思って聴いてね。	（町田ハケ／中島入りー舞台前へ／藤重舞台前へー／藤重ハケ）
0：31	M4（04：00）	「鶴の巣籠」	中島（尺八）
0：35	MC4（06：00）	中島： ありがとうございました。 鶴の鳴き声が聞こえてかな？ （生徒：はい！） 藤重： 三味線は温度や湿度の違いでチューニングとか変わったりするんだけど、寒いところでびっくりしちゃったのか、なんと皮が破れちゃった！ （藤重の三味線の皮が破れていて、見せる） （生徒：ワー！） 残念ながらこの三味線はもう演奏できません。 （生徒：エー！）	

0：35	MC4（06：00）	夢ちゃんの貸してくれる？ 町田： いいよ！ （袖から三味線を持ってきて藤重に渡す） 藤重： ありがとう。 （三味線を持ちながら） さて、このフレーズはみんなにはなんて聞こえる？ （フレーズ弾いてみる） （生徒：テケテケテン、チャンチャンチャン、等それぞれ言う。） 私はこのフレーズの口ずさみ方は「チリチリチン」と思って弾いていて、そして、私の後に夢ちゃんと礼ちゃんはこういうフレーズを演奏するんだけど、、、 （町田＆中島でフレーズ弾いてみる） 町田： 私はこのフレーズの口ずさみ方は「ツルツルツン」だと思って演奏しているんだよ。 藤重： この「チリチリチン」と「ツルツルツン」のフレーズを交互に演奏するんだけど、ちょっとゲームをやるよ。ルールを説明するね！まず、私が「チリチリチン」と言うので、みんなは夢ちゃんと礼ちゃんの役で「ツルツルツン」と言ってね。まず私と夢ちゃんでやってみるね！ （藤重と町田でデモンストレーション） 分かったかな？ （生徒：頷く） じゃあ、行くよ！ 「チリチリチン」 （生徒：「ツルツルツン」） （静かに／速く／イントネーション変える、等５、６回やる。） みんな上手だね！私たちは演奏中に今みたいに、こういう音がこう来たらこう返すといった様な掛け合いをしています。次の曲は「尾上の松」という曲なんだけど、この曲にもこの掛け合いがたくさん出てきます。そして、次の曲は楽器は３つ全部出てくるんだけど、それに加えて私と夢ちゃんは歌も歌います。歌の歌詞の中には「めでたい」という意味の昔の言葉「やらやらめでたや」という言葉が出てきます。さっきみんなとやった掛け合いにも注目して聴いてね。	（町田＆藤重入り／ 町田（箏）藤重（三味線）中島（尺八）の位置へ）
0：41	M5（07：00）	「尾上の松」	藤重（三味線、歌）町田（箏、歌）中島（尺八）
0：48	MC5（05：00）	藤重： ありがとうございました。今日は、「口ずさめる和楽器の音色」ということでお届けしてきました。ありがとうございました！ 担任の先生： みなさん、今日はとても素晴らしい機会を頂けましたね。 せっかくお越し頂き、まだ少しお時間あるので、誰か質問ある人はいますか？ （多数の生徒が手を上げる） （生徒１：尺八は、竹の種類によって音が変わりますか？） 中島： はい、真竹という種類の竹を使っているものが多いです。基本的な楽器としての音色は一つですが、素材によって音色に若干の違いはあります。 担任の先生： 他に質問ありますか？ （生徒２：楽器はいくらぐらいしますか？） 藤重： いくらぐらいすると思う？ （生徒：10万円！ 30万円！ 100万円！）	

0：48	MC5（05：00）	東京で一人暮らしする家賃の１年間分ぐらいかな！？ （生徒：？？？） 楽器によって違いますが、お箏は10万円ぐらいから買えるものから、私の先生のお箏は家が買えるぐらいするものもあるみたいです。 （生徒：えええ！） 担任の先生： みなさん、貯金してくださいね。 他に質問ありますか？ （生徒３：箏を弾く時の爪は何でできているの？） 町田： 輪っかの部分は犬の皮、白い部分は象牙です。 （実際に弾きながら） 指だけで弾くとこういう優しい音が出るんだけど、爪を使って弾くとこういう芯のある音が出ます。 （生徒：力強いね！） 箏は弦の張力が強いので、大きく強い音を出す時には爪を使います。 担任の先生： 他に質問ありますか？ （生徒４：演奏中に箏の弦を押すのは何をしているんですか？） 町田： （実際に弾きながら） こういう風に音を変えたり、礼ちゃんが顔を振ってやっていた様にヴィブラートをしたりしています。 担任の先生： 他に質問ありますか？ （生徒５：さっき三味線の皮が破れていたけれど何でできているんですか？） 藤重： 三味線の皮は、いろいろあるんだけど、だいたい猫ちゃんやワンちゃんの皮でできます。 担任の先生： 他に質問ありますか？ （生徒６：尺八は見た目が違うことで特別感が出たりするんですか？） 中島： そうですね、それぞれ好みはあります。根っこがボコボコしているものが好きな人もいれば、削ってあって綺麗なのが好きな人もいます。 藤重： 見た目で買ったりもするの？ 中島： しますよ！ 担任の先生： はい、それではもう質問もなさそうですね。みなさん、本日は本当にありがとうございました！ （スタッフがホール公演のポスターを持って前へ） 藤重： ホール公演告知。 もし良かったらみんな来てね！ それでは、ありがとうございました！ （全員退室）	担任の先生、終演後全員退室

実施団体：一般財団法人上里町文化振興協会
実施時期：令和５年１月26日（木）～令和５年１月28日（土）
出演アーティスト：藤髙りえ子（琵琶）　簑田弘大（三味線）　石田真奈美（箏）

アクティビティ

タイトル：令和４年度邦楽活性化事業アウトリーチコンサート
期　　日：令和５年１月26日（木）　10：00～10：45
会　　場：上里町役場議会議場
参 加 者：35名（町長・副町長・議長、議会議員14名、町職員18名）

上里町役場の議場において町３役、議会議員、町職員を対象にアウトリーチを行いました。議員の方には自席に、他の方には傍聴席側に着席いただき邦楽の演奏を至近距離で堪能いただきました。

タイトル：令和４年度邦楽活性化事業アウトリーチコンサート
期　　日：令和５年１月26日（木）　13：45～14：30
会　　場：上里町立神保原小学校　学習室
参 加 者：41名（６年生）

小学校６年生を対象にアウトリーチを行いました。それぞれの楽器単独の演奏、音当てクイズ、３つの楽器による演奏等で児童に邦楽の魅力を伝えました。演奏終了後には児童からの質問がありました。最後に記念撮影も行いました。

タイトル：令和４年度邦楽活性化事業アウトリーチコンサート
期　　日：令和５年１月27日（金）　10：00～10：45
会　　場：上里町総合文化センター（ワープ上里）
参 加 者：29名（邦楽サークル20名、ホールボランティア９名）

邦楽サークル、ホールボランティアを対象にアウトリーチを行いました。邦楽サークルの方も普段なかなか触れることの無い楽器の音色にひきつけられていました。

タイトル：令和４年度邦楽活性化事業アウトリーチコンサート
期　　日：令和５年１月27日（金）　13：25～14：10
会　　場：上里町立長幡小学校　体育館
参 加 者：39名（６年生）

小学校６年生を対象にアウトリーチを行いました。それぞれの楽器単独の演奏、音当てクイズ、３つの楽器による演奏等で児童に邦楽の魅力を伝えました。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：ワープ上里和楽器体験ワークショップ
期　　日：令和５年１月28日（土）　10：00～15：10
会　　場：上里町総合文化センター（ワープ上里）
参 加 者：32名

琵琶と三味線の楽器体験を午前と午後の部に分けて、公募により行いました。ワークショップ後は成果発表を行い、最後に講師の演奏を聴いていただきました。

ホール担当者の意見・評価
一般財団法人上里町文化振興協会　髙橋　達也

① 応募の動機・事業のねらい

令和２年度に邦楽活性化モデル事業として実施を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で今年度に実施させていただくこととなりました。普段、中々触れることの無い琵琶を中心とした和楽器の演奏により邦楽の魅力を伝えられる事業となることを目的としました。

② 企画のポイント

邦楽の魅力を幅広い層に知っていただくために、アクティビティ先の選定を学校だけでは無く、町議会議場と邦楽サークル向け（会館が会場）として老若男女に伝えるようにしました。議場でのコンサートでは町３役、議会議員、職員に参加いただくことで財団の活動を知っていただく機会としました。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

アクティビティでは小学校２校と決めていて教育委員会を通じて学校を選定しましたが、決定までに時間がかかりました。議場でのコンサートは初めての開催のこともあり色々な問題（開催､音の問題等）がありました。邦楽サークルでは、人数を制限しなければならずサークル会員全員の参加が難しかったことがあります。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

小学校に関しては、演劇アウトリーチを希望していた学校に呼びかけたところ邦楽事業についても快諾いただきました。もう１校については、教育委員会の協力を得て決定することが出来ました。議場の開催については、上司を通じて本事業の趣旨を伝え開催が実現出来ました。音の問題については、下見の際に確認して無事に演奏を行うことが出来ました。邦楽サークルについては、身近に演奏を感じて欲しいために少人数での観覧をお願いして理解いただけました。

⑤ 事業を実施しての成果

少人数を対象とする本事業では、楽器一つ一つの音や演奏者の息遣いを身近で感じていただくことが出来て､参加いただいた方に邦楽の魅力を伝えられたと思います。和楽器体験では初心者の方が殆どで、体験いただいたことにより和楽器をより身近に感じていただけたと思います。今回、私自身も琵琶の演奏を体験出来てとても楽しかったです。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

コロナ禍でさらに冬季の事業だったこともありますが、学校の体育館でのアウトリーチは、寒さや広さ等で演奏者にとって厳しいのかなと思いました。音楽室や視聴覚室等のコンパクトなスペースでの演奏とすることで、さらに演奏を身近に感じていただけると思いました。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

ホールでの音楽系事業は比較的多く開催していますが、邦楽については開催数も少なくなかなか慣れ親しんでいない地域で、今回の事業でも邦楽のアウトリーチコンサートってどんなことをするのだろうと思われていた方も多かったのですが、実際にコンサートを行うと、皆様が感動された様子が良くわかりました。今後もこういった活動を通じて、邦楽を含めた音楽の素晴らしさを地域に伝えていきたいと思います。

コーディネーターレポート
伊藤　由貴子

上里町での事業は、もともと令和３年１月に実施される予定でしたが、コロナ感染症の広がりにより、実施直前に中止の憂き目を見たものです。主催者である一般財団法人上里町文化振興協会（上里町総合文化センター＝ワープ上里指定管理者。以下、上里町）の担当者が、変わらぬ熱意をもって申請してくださったことで、本年度の実施の運びとなりました。

このチームは、琵琶の藤高さんをリーダーに、三味線、箏という、ユニークな編成です。この編成は歴史的な編成とは言えませんが、アーティストたちは３楽器の共通点に着目し、その魅力を紹介しようとさまざまな工夫に取り組みました。これが邦楽への新たな興味を呼び起こすよき切り口を生み出したと思います。

１、めざしたこと

主催者の上里町は、本事業で、邦楽のすばらしさ、楽しさを伝えたいのはもちろんのこと、特に琵琶が入っているチームであることに注目し、日本に多様な楽器があることを紹介したい、との意向でした。

一方、アーティストたちは、琵琶、三味線、箏のいずれもが、個性的な音の世界を持っていることをきちんと伝えたい、また、３楽器ともに歌を伴って演奏されること、絃楽器でありながら同時に打楽器的要素も持っている点など、共通点に着目し、合奏することから生まれる新しい世界を紹介することを目指していました。

これらを前提に、「アクティビティに子どもたちや地域の方々が参加でき、楽しい！と思える場面を織り込もう！」という新たなテーマも加えて、２年前のプログラムを見直していきました。

２、地域アクティビティのプログラム

地域アクティビティは、小学校２校（いずれも６年生対象）、上里町役場議会議場、そして邦楽愛好家をワープ上里に集めてと、全４回。対象の年齢層や属性が様々でしたが、基本は小学校でのプログラムとし、各対象にあわせカスタマイズする形をとりました。

プログラム冒頭は、この編成のために作られた川崎絵都夫作曲『三雅（さんが）』の１楽章。この合奏で参加者の心をつかみました。次いで、個別の楽器の紹介をしながら自分たちが演奏家になったいきさつを語り、更に「クイズコーナー」で楽器の音色や奏法を楽しく紹介。最後に『三雅』の残りの楽章を演奏、という構成。

プログラムは、12月に東京のスタジオで実施した実地研修でアーティストに試演してもらい、ワープ上里の担当者やコーディネーターら関係者が子ども役となって体験し、予定している時間内に収まるか、全体の流れはスムーズか、「クイズ」は楽しめるか、などを議論し、ブラッシュアップしました。

今回、３人のアーティストが子どもたちや地域の方々に楽しんでもらおうと知恵を絞ったのが、「クイズ」２題。まずは聞いている方々を立たせ、後ろを向かせ、「さて、この音はどの楽器の音でしょうか？」と問いながら楽器を鳴らして、あらかじめ伝えておいた手ぶりで回答する、というもの。もうひとつは各楽器のユニークな奏法の名称を三択で当ててもらうもの。ひっかけ問題あり、笑いを誘う選択肢ありで、当たる当たらないは関係なく楽しめ、肩の力を抜いて楽器情報を得られるよい企画になりました。同時に、絃の音色や奏者の仕草に耳を澄ませ、目を凝らすひと時をつくるよき工夫であったと思います。

どの会場でも「ほぉ～」と言う感心の声が上がったのが、箏の調弦を目の前でやって見せる場面。議場でも小学校でも、聴衆の心をわしづかみ、という感じでした。アーティストが日々当たり前にやっているこうした行為にも、初めての人たちの興味の糸口があることを実感させる場面でした。

今回、実施会場という点で実に新鮮だったのは、上里町役場議会議場。町長、副町長、教育長及び町会議員全14名にご参加いただき、小学校で行うのと同じプログラムを実施しました。議場はマイク使用前提の場所であり、座席もテーブルも作り付けで動かせず、中央部分の天井がドームのようになっているため、会場の中央部分に立って何か音を出すと、頭上に不思議な反響音が鳴る等、音楽空間としては特殊な環境でした。ここで日本の絃楽器の魅力が伝わるか、そもそも議員さんたちが楽しいと感じてくださるだろうか？「議員の皆さまも、小学生の頃に戻ってお楽しみください」と上里町の事務局長に冒頭言っていただいたものの、上里町関係の皆さんも、そしてアーティストたちも緊張したスタートでした。しかし、結果は上々。議員の皆さまには、楽しそうにクイズにご参加くださり、終了後は「贅沢な時間でした」とのコメントもいただきました。

３、ワークショップの工夫

本事業は、地域アクティビティと当該施設でのコンサート又はワークショップ、という構成が規定されています。最終日にホールコンサートを行う主催者が多い中、上里町では珍しくワークショップが行われました。せっかくの機会、ただ体験しておしまい、ではつまらない、ということで、楽器体験のあと、全員でアーティストと共に合奏体験をし、更に、アーティストたちの模範演奏を聴く、という構成となりました。

ワークショップは、一コマで琵琶６名、三味線10名を募集し、二コマいずれも満員。前半１時間ほどかけて、楽器の構え方から、音の出し方を習い、簡単なフレーズを弾くなどを体験。その後ホールに集まり、「さくら」の旋律を基に、琵琶、三味線に、箏も加わった大合奏に挑戦しました。

これが想像以上にうまく行きました。参加者にとってはハラハラドキドキの中にも、達成感が味わえる体験だったと思います。弾き終わった後の晴れ晴れとした表情が印象的でした。更にその後に、アーティストたちの模範演奏『三雅』を間近で鑑賞。先ほどまで自分たちが手にしていた楽器からこのような音楽が紡ぎだされるのかと、真剣な表情での鑑賞となりました。

終了後は参加者全員で写真撮影もあり、体験者の満足度はぐっと上がったと思います。

４、細かな工夫

実施に当たって、意識していたのは、いかに平易な日本語でシンプルかつ的確に伝えるか。例えばプロフィールの文章、トークでの言い回し。同じことを他の言葉で言い換えたり、邦楽用語や人の名前など、馴染みのない人に読めるよう、ルビを振りました。

また、地域アクティビティでは、わくわくと当日を待つ楽しみを味わっていただきたいと、簡易チラシを作り配布していただきました。そこには、アーティストのにこやかな写真、「自分はどんなことに力を入れている演奏家か」をわかりやすく書いたプロフィールと共に、参加者へのメッセージも掲載。また、楽器ごとのソロ演奏の折に歌われる歌詞もあらかじめ配布しました。上里町の担当の方々や、アーティストのご協力なくてはできないことですが、こうした細かな工夫の重なりが当日の満足度につなが

るのではないでしょうか。

５、最後に

今回、上里町の担当者、関係者の方々の静かだけれど熱い動きが印象的でした。前日、準備の終わった会場で、翌日のリハがわりに、と藤高さんの指導でミニ琵琶体験が行われました。やってみたい、と楽器を手にしたのは上里町の担当者でした。担当者自身が楽器への理解を深めれば、ワークショップの参加者や、アクティビティ先の方々とも会話がはずみます。この好奇心と行動力が、この町の芸術文化活動を活性化していく原動力なのだ、と実感いたしました。

また、議場という今後につながる場をアクティビティ会場に選び、様々なご調整をしてくださったことは本当に意義深いと思います。議場での成果は、今後の普及的事業（つまり収入がない事業）への理解と、行政支援の必要性の認識につながり、現実的には翌年度以降の予算獲得にもつながることでしょう。素晴らしい戦略だと思います。

アーティストの皆さんについては、２年越しの企画を、更に見直して新たなコーナーも生み出すために粘り強く考え､ブラッシュアップを重ねられたことに､心からの賛辞を贈ります。今回のようなユニークな編成であったからこそ、日本の楽器の魅力を伝える手法もチャンスも増え、可能性が広がっていくのだと思います。アーティストの皆さんの発想力を活かし、楽しい事業がこれからも企画、実施されていくことを願っています。

アウトリーチ進行シート（埼玉県　上里町）
大久保　真利子（サブコーディネーター）

実施日	令和５年１月26日
実施先	上里町役場議場
対象・実施先の情報	上里町役場の議場にて、議員14名、町の三役３名、職員17名を対象に実施。
出演者	藤髙りえ子（筑前琵琶）、石田真奈美（箏）、簑田弘大（長唄三味線）
ねらい／目標	声をともなう楽曲や合奏により、弦楽器三種それぞれの魅力を伝える。

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
【セッティング】 ・事前に（1）メッセージとプロフィール、（2）演奏曲の歌詞を配布 ・円形会場の音響補正および楽器のバランスをとるために、琵琶の後ろにホワイトボードやパネルなどを立てる			
０：00	入場	主催団体による挨拶と紹介、拍手による招き入れ	演奏者は楽器を持って入場
３：00	M1（２：00） 「三雅」より	藤髙（琵琶）、石田（箏）、簑田（三味線）	
５：05	オープニング：藤髙	みなさん、こんにちは。今日は三つの和楽器の音色を聴いてほしい。担当楽器と演奏者の紹介。 今回の楽器はすべて弦楽器。普段は活躍する場が違う。共通点は声を使えること。今日は声を伴う曲でそれぞれの楽器の魅力を伝えたい。難しい言葉は、事前配布の歌詞で確認してほしい。	
６：25	MC2（3：45） 藤髙 琵琶の紹介 始めたきっかけ 演奏曲の紹介	まずは琵琶の紹介。 三つの中でも最も目にすることが少ない楽器。琵琶は合戦の様子などの物語を語りながら伴奏を付けるのが基本スタイル。代表は平家物語。 源平合戦は当時としては大ニュース。庶民は琵琶法師が弾き語ることでその様子を知った。 琵琶をはじめたきっかけは幼少期アメリカに住んでいた時に、日本文化を紹介できなかったこと。日本人ならではの何かを習いたいと思っていたとき、演劇が好きだったこともあり、物語を語りながら演奏する琵琶に興味をもった。 演奏するのは平家物語の「那須与一」。場面は海、小さな舟に扇が立てられている。対岸から那須与一という若い侍がその扇を弓矢で射落とすという勇壮な場面。昔の人の気持ちになって聴いてほしい。	石田・簑田：はける
10：10	M2（3：25） 「那須与一」	藤髙（琵琶）	
13：35	MC3（5：00） 簑田 三味線の紹介 始めたきっかけ 演奏曲の紹介	次は三味線の紹介。 三味線は太さが異なる弦が3本。高さや音色が異なるため「三味線」と言われる。白い部分は革が張ってあるが何の革？３択（猫、シロクマ、餃子）。答えは猫の革。右手に持った撥で革の部分を叩いて響きを出す。 両親が三味線演奏者。幼少期から慣れ親しんでいた。あるとき新しい三味線曲を聴いた時に面白さを感じ、今でも演奏を続けている。 この三味線は歌舞伎で活躍する場面が多い。たとえばサルやカエルの鳴き声（それぞれ実演）のように音を真似することで場を盛り上げる。今日は歌舞伎のなかでも最も有名な「勧進帳」から「滝流し」を演奏する。兄の源頼朝が弟の義経を追っていて、義経とその家来の弁慶が命からがら逃げているという迫真のシーン。	藤髙：はける
18：35	M3（1：35） 「勧進帳」	簑田（三味線）	

22：10	MC4（3：50） 石田 箏の紹介 始めたきっかけ 演奏曲の紹介	この楽器が箏。 弦は何本？一緒に数えてみよう（音に合せて声を出しながら数える）。13本。三つの楽器のなかでは最も弦の数が多い。この白いものは琴柱。左右に動かすことにより音の高さが変わり、曲ごとにセットする。調弦という（実演）。他の弦とのハーモニーを聴きながら調弦する。 祖母の影響で生まれて間もない時期から箏を触っていて、1歳半で初舞台を踏んだ。ある日祖母から東京藝術大学で箏を学んで欲しいと言われた。私自身もたくさんの習い事をしてきたなかで、他のひとがあまりやっていない事をやりたいと思い箏を選んだ。今は「琴線に触れる」という言葉のとおり、人の心に届く音楽を奏でたいと思い箏を演奏している。 「千鳥の曲」を演奏する。『古今和歌集』で鳥を題材としたうたを歌詞にした曲。箏は小さな部屋で演奏されていた。琵琶や三味線と活動の場所も異なる。そんなことに思いを馳せながら聴いてほしい。	簑田：脇にはける
26：00	M4（4：35） 「千鳥の曲」	石田（箏）	
30：35	MC5（7：35） クイズ（進行：藤髙） 音当てクイズ 奏法の名称クイズ 藤髙：次曲紹介	各楽器の音をじっくり聴いたので、２種類のクイズをしたい。まずは楽器の音当てクイズ。立ってほしい。 琵琶だと思う人は頭のうえで大きな丸、箏だと思う人は頭に手を置いて、三味線だと思う人は胸の前で手を交差。演奏している楽器が見えないように後ろを向いて。 それではこの音はなに？（実演→回答→正解、4問）。 次は奏法の名前を当てるクイズ。各楽器に特殊な奏法がある。その名前を３択クイズにする（実演→３択→回答→正解。琵琶、三味線、箏の順に３問）。 このように同じ弦楽器であっても特徴も活躍の場も異なる三つの楽器だが、今では一緒に演奏するために五線譜で書かれた曲もある。 最後の曲は「三雅」。三つの楽章から成る曲。最初に弾いた曲が第１楽章。ここからは第２楽章と第３楽章を続けて聴いてほしい。	藤髙と簑田：演奏位置につく
38：10	M5（6：10） 「三雅」より	藤髙（琵琶）、石田（箏）、簑田（三味線）	
44：20	退場	主催団体による挨拶、拍手による送り出し	演奏者退場

実施団体：公益財団法人黒部市国際文化センター
実施時期：令和５年１月26日（木）～令和５年１月28日（土）
出演アーティスト：棚原健太（三線）　町田倫人（琉球箏）　大城建大郎（琉球笛）

アクティビティ

タイトル：パフォーミングアーツのエントランスVol.6「琉楽」
期　　日：令和５年１月26日　10：40～11：25
会　　場：黒部市立石田小学校　音楽室
参 加 者：４年生　26名

海水浴場が目と鼻の先にある黒部市石田小学校。この地の感受性豊かな時期である児童へ向け、すぐ手の届きそうな距離感で瑞々しい音色での演奏に加え、それぞれの楽器の特性を丁寧に説明することで前のめりに聞き入る児童の姿が印象的であった。プログラム後半の「口説」（くどぅち）では、児童から引き出したワードを入れ込んだ曲にしたことで新たな感動の発見に繋がったアクティビティとなった。４年生という中学年であっても集中して鑑賞する内容であった。

タイトル：パフォーミングアーツのエントランスVol.6「琉楽」
期　　日：令和５年１月26日　14：25～15：10
会　　場：黒部市立宇奈月小学校　音楽室
参 加 者：４年生　26名

宇奈月温泉と黒部峡谷鉄道、観光資源に溢れる地の宇奈月町。この地の感受性豊かな時期である児童へ向け、すぐ手の届きそうな距離感で瑞々しい音色の演奏に加え、それぞれの楽器の特性を丁寧に説明することで前のめりに聞き入る児童の姿が印象的であった。プログラム後半の「口説」（くどぅち）では、児童から引き出したワードを入れ込んだ曲にしたことで新たな感動の発見に繋がったアクティビティとなった。４年生という中学年であっても集中して鑑賞する内容であった。

タイトル：パフォーミングアーツのエントランスVol.6「琉楽」
期　　日：令和５年１月27日　10：30～11：15
会　　場：黒部市立中央小学校　音楽室
参 加 者：６年生36名

黒部市内で最も児童数が多く市中心部に位置する中央小学校。この地の感受性豊かな時期である児童へ向け、すぐ手の届きそうな距離感で瑞々しい音色の演奏に加え、それぞれの楽器の特性を丁寧に説明することで前のめりに聞き入る児童の姿が印象的であった。プログラム後半の「口説」（くどぅち）では、児童から引き出したワードを入れ込んだ曲にしたことで新たな感動の発見に繋がったアクティビティとなった。午前と午後開催の６年生２クラス共、積極的な質問が飛び出した。

タイトル：パフォーミングアーツのエントランスVol.6「琉楽」
期　　日：令和５年１月27日　14：25～15：10
会　　場：黒部市立中央小学校　音楽室
参 加 者：６年生33名

黒部市内で最も児童数の多い中央小学校。この地の感受性豊かな時期である児童へ向け、すぐ手の届きそうな距離感で瑞々しい音色の演奏に加え、それぞれの楽器の特性を丁寧に説明することで前のめりに聞き入る児童の姿が印象的であった。プログラム後半の「口説」（くどぅち）では、児童から引き出したワードを入れ込んだ曲にしたことで新たな感動の発見に繋がったアクティビティとなった。午前と午後開催の６年生２クラス共、積極的な質問が飛び出した。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：パフォーミングアーツのエントランスVol.6「琉楽」
期　　日：令和５年１月28日　14：00～16：00
会　　場：コラーレ　マルチホール
参 加 者：109名

パフォーマンスのみならず楽曲及び楽器解説など、丁寧に説明することでアーティストの人柄も感じ取ることができるファンにはもちろん初心者にも楽しめるコンサートとして定期的に開催する公演。シリーズとしては13年振りに三線奏者を招いたが「琉楽」としての公演は初となった。三線に加え、琉球箏と琉球笛とのアンサンブルが琉球の風景をも感じさせ、真冬の富山であっても、会場は温かな雰囲気に包まれた公演となった。

ホール担当者の意見・評価
公益財団法人黒部市国際文化センター　大野　徹

① 応募の動機・事業のねらい

「地域創造 音楽活性化事業」が発端となり、シリーズとして20年以上に亘ってクラシックや邦楽公演の入門編として継続してきた当事業。

またそろそろ邦楽にスポットを。というタイムリーなこの時期に活性化事業へ申請させて頂いたところでした。今回出会わせて頂いた沖縄在住の若手アーティストをオリジナルのシリーズ企画に当てはめ公演趣旨に合わせ開催できることは、当方にとって大きなチャンスであると捉えておりました。真冬の１月開催。北陸の地である富山とは気候・衣食住・文化も異なる「琉球」（おきなわ）の伝統芸能を敢えてこの時期に感じ取って頂ける絶好の機会と捉えこの地域の邦楽ファンや日頃、生の芸術になかなか触れる事の少ない子ども達にも希少な体験をしてほしいという想いを強く持って望みました。

② 企画のポイント

オリジナル企画「パフォーミングアーツのエントランス」は当方のコンパクトでフラットな「マルチホール」の特性を生かし、聴衆がアーティストを間近な距離で息づかいまでも感じ取ることができる趣旨のシリーズ公演。今回の「琉楽」公演では備え付けの250インチスクリーンへ客席後方に着席するお客様にもしっかりご覧頂けるようズームアップした映像を投影し楽器解説を行った。入門編と位置付ける公演であるため、「演奏」「楽器解説」のみならずアーティストの滞在中に小学校へ出向きアウトリーチを行ったその様子もお伝え頂いた。琉球の文化を広くご紹介頂き心温まるトークを多く取り入れて頂いたことで企画趣旨にフォーカスされた初心者のお客様でも楽しめる公演となった。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

開催館として事前の細かい打合せや不安事については、地域創造ご担当者及びコーディネーターへ気軽に相談でき、E-mail及びZOOM会議で十分にコミュニケーションが取れていたことと、事前の会場下見があったことで振り返ってみると「苦労」だったと感じることはありませんでした。

※敢えて挙げるならば公演３週間程前まではチケットセールスが伸び悩んでいたということです。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

チケットセールスの状況が、開催１ヶ月前の段階で実際に公演へご入場頂いた来場数の半数程度の販売数でありました。

販売実数を伸ばすための行動として日頃から会館に出入りされている団体様へ直にアーティストの魅力をアピールさせて頂いたことや、会館役員などご招待させて頂いた各所へ再度PRをし、お連れ様を引き連れてご来場頂きました。またアクティビティによって教員や児童のご家族にも本公演の開催が伝わったこともあって、会場がほぼ満席になったことに繋がったと考えます。

⑤ 事業を実施しての成果

公演終了後、ロビーで出演者がお客様を見送りする中、来場者の多数が素通りすることなく出演者に一言の感想を添える姿が印象的でした。その風景は双方が満面の笑みで、出演者３名の人柄がこの地域の方々にフィットしたのだと実感しました。非常に寒波が強かったこの時期に沖縄から「琉楽」の演奏だけでなく、温かみあるその振る舞いがお客様方の心を掴みアーティストに対して「感謝の意」が表れ

た形と感じました。地域に広く芸術文化を紹介する役割を担う立場の一人として、お客様より「ありがとう。よかったよ。」という感想を頂けた事に大きな成果を感じています。また、少数ではありましたが小学生を連れた親子の姿も見受けることができ、アクティビティの成果を感じました。

⑥　事業を実施しての反省点・課題

公演前のチラシ作成にあたり、アーティストの写真素材を新たに撮影し直すことになったことで予定より広報のスタートが遅れる事となり、開催まで３ヶ月を切った状況で、地域へ如何に公演PRしていくかが課題でした。アーティスト個々の写真データを基に仮チラシ（モノクロ）とHPへの掲載でその時期を過ごしましたがチケットセールス状況に焦りもありました。後に仕上がった、琉球を感じる衣装に身をまとった満面の笑みの写真データを頂き、即チラシの発注。多方面に出向き公演のPRをしたところ良い感触を得ることができました。この際に感じた事として、人々が見知らぬアーティストである公演に興味を抱かせるには少なからずも視覚的にインパクトであったり、温かみをそそるようなデザインを用いるべきと感じました。未だ見ぬ来場者への伝え方を更に追求すべきと感じさせられました。

⑦　今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

今回のアクティビティ公演では市内小学校を３校、合計４度の開催。初日に訪問する２校は４年生が対象。実際に始まるまでは未だ高学年に至らない４年生に鑑賞中の集中力が持続するかが不安に感じる自身がいました。出演者が衣装をまとい、優しい笑顔で音楽室に入場後からはその不安は払拭されました。これまでも今回のように地域の子ども達にホンモノの芸術を届けてきましたが子ども達が鑑賞する眼差しを間近で拝見し、登録アーティストが思い描いていた以上のパフォーマンスをしてくださっていること、それを真剣に鑑賞し、ストレートに質問をぶつける子ども達の姿勢を目の当たりにし感銘を受けました。訪問した学校の先生方とは日頃からコミュニケーションを取るよう心がける事で事業への理解度も深まり要望をすんなり受け入れて頂けたと感じています。次回は更なる「ブラッシュアップ」を目指します。

今後また各学校へ伺う際には各所から頂戴したご感想を基に、我々ホールスタッフが更に「ブラッシュアップ」した形でアクティビティ公演に望めるのではないかと感じています。ホール公演でもアーティストの「人となり」を感じて貰うことでよりそのパフォーマンスをより興味深く鑑賞頂けると感じています。お互いの地域をよく理解し合うことで、会場が温かい雰囲気に包まれる公演となりました事を心から感謝致します。

コーディネーターレポート
米澤　浩

「10年に一度」と「14年で初めて」

「10年に一度の大寒波」に日本全国が戦々恐々とした2023年１月25日、３人のアーティストと共に富山県黒部市に入った。リーダーの歌・三線（うた・さんしん）「棚原健太：たなはら けんた」さん、琉球箏（りゅうきゅうごと）「町田倫士:まちだ のりと」さん、琉球笛（りゅうきゅうぶえ）「大城建大郎:おおしろ けんたろう」さん達３名（以下、敬称略）の『琉楽（りゅうがく：琉球古典音楽）チーム』が『黒部市国際文化センターコラーレ』に着いた時、那覇と黒部の温度差は20℃以上あった。

黒部入り前日、夕方のニュースで「雪の影響で宅配各社が富山県内の集配を中止している」と報道。即座にコラーレのプロデューサー大野さんに電話を入れたところ、「ちゃんと着いている」との確認が得られ安堵した。『棚原琉楽チーム』はOR（アウトリーチ）とHP（ホールプログラム）で使う諸々を前日の１/24着で那覇から発送していたが、その中にはORとHPで使用する「重要アイテム」も含まれていた。

黒部入り当日、アーティストと共に予定の新幹線に無事乗車したが、町田は別送できなかった琉球箏を担いでの飛行機・新幹線移動であった。雪の影響で我々の乗った新幹線は10分遅れで出発したが、黒部宇奈月温泉駅には定刻で到着するとのアナウンスにヤレヤレ。しかしその車中、１本先乗りで黒部を目指していた地域創造スタッフから「コラーレの大野さんから今日（１/25）は黒部市内の小中学校は休校になり明日は未定」との情報が入って来た。しかしコラーレ到着時には「明日小中学校は休校にならない」と聞き一安心。『黒部チーム』全員で翌日からのスケジュール・移動の段取り・OR実施校での会場設営手順等々を確認し、『棚原琉楽チーム』のORプログラムの確認を開始した。

実地研修でORプログラムは固めていたので最終確認は「黒部の子ども達の反応を楽しみにしながら」進められたがこれには訳がある。実はコラーレ大野さんからのリクエストで『棚原琉楽チーム』が作ったビデオメッセージが各実施校に渡され、黒部の子ども達は彼らの人柄を知ったうえでORプログラムを鑑賞する。３名それぞれの人柄は黒部の子ども達へアプローチする時の「最初のカード」だ。何しろ22年５月東京でのプレゼンでコラーレ大野さんがリーダー棚原の人柄に触れたことが、『棚原琉楽チーム』に黒部コラーレが白羽の矢を立てた動機だった。

ORは１/26・27に無事予定の４回を実施。琉球絣を着て子ども達の前に立った３人は回を追う毎にMCに工夫を加えていったが、楽器紹介に「重要アイテム」（２枚目のカード）が仕込まれていた。実は、棚原が那覇の三線屋さんに本事業の内容を伝えたところ、事業主旨にご賛同下さった三線屋さんが快く三線に張る〈ニシキヘビの皮〉を貸し出して下さった。長さ４mを超える〈ニシキヘビの皮〉を大城と町田が子ども達の目の前で広げて行った時の反応は期待通り。子ども達の「琉球の楽器・文化」への興味を掴んでいた。

３枚目のカードは「琉球音階」の紹介。子ども達がよく知る《カエルの歌》を「琉球音階」で歌い、「琉球音階」が持つパワフルさを紹介した。そして最後のカードが『琉楽』の《口説（くどぅち）》を子ども達と一緒に作り上げ、それに《〇〇小 口説》と学校名のタイトルを付けて演奏。「子ども達が作品作りから参加してそれを鑑賞する」という構成は、『琉楽』が「自由」であり「生活に密着している」ことを伝えただけでなく、学校ごとの《オリジナル口説》は子ども達の興味･関心を完全に掴んだようだ。

45分のORプログラムは『棚原琉楽チーム』が「切り札」を畳みかけた構成だったが、「ORの肝」も外さなかった。最後に棚原は、「沖縄の音楽は、沖縄の気候や風土、沖縄の言葉の中から生まれ育って

きた。皆の周りにもある黒部ならではのものを探してみて欲しい。」と締めくくった。

OR終了後のHP前夜、富山県から「１/27の夜から翌朝にかけての大雪警報」が出されたが、その時点で前売り券が100枚近く出ているとのことだった。会場の「マルチホール」は備え付けのプロジェクターも活かすよう舞台が設置され、サロンコンサートの雰囲気を醸し出す円卓が並び《パフォーミングアーツのエントランスVol6 琉楽》の準備が進められた。

HP当日、舞台上にはコラーレのボランティアさんのご協力で「花のオブジェ」が置かれ、大円卓８・小円卓６で116席が準備されていたが、午前中のGP進行中に当日券を問い合わせる電話が何本もコラーレに入り、急ぎ最後部の小円卓４卓を撤去して客席を増設し130席に増やす対応がとられた。

開場15分前には20人ほどが開場待ちの列をなし、開演10分前には円卓席が全て埋まりお客様方はドリンクサービスを手に円卓を囲んで開演を待っていた。嬉しかったのはORを受け入れて下さった小学校３校の先生方が皆さん来場して下さっていたことだ。

HPの１部は『琉楽』プログラムで、琉球士族の正装で登場した演奏者には会場から声が漏れた。「黒朝衣（くるちょー）」という袍（ほう：黒一色の表着）に「大帯（うふうびー）」という帯を締め、頭には「帕（はちまき）」と呼ばれる冠を被った装いに、彼らが本物を届けたいという「気構え」を感じた。２部は琉球士族の平服の琉球絣に着替えて民謡も含めた構成でお客様にHPを楽しんで頂いた。

印象的だったのは１部の楽器紹介や「琉球音階」の紹介での〈ニシキヘビの皮〉や《カエルの歌》にはOR以上の反響を頂いたこともあるが、大城・町田がそれぞれのキャラでのMCでお客様の肩を揉み解して会場を沸かせていたことだった。

プログラムの終了後、カーテンコールを求めるお客様方の拍手が客席全体での手拍子に変わり、ステージに呼び戻された『棚原琉楽チーム』はアンコールの１曲目に黒部に滞在した思い出を織り込んだ《黒部口説》を披露した。お客様方は身の周りの色々が歌い込まれて行く《黒部口説》を楽しんで下さったようで、２曲目の《めでたい節》では客席から手拍子も沸き、会場一体の様子にお客様方が120分のHPを満喫して下さったことを感じた。

終演後にロビーでお客様方を見送る棚原・大城・町田の前には、一緒に写真を撮りたいとお客様が列をなした。小学校の先生を見つけた私はORの時には撮れなかった写真を一緒に撮るようお勧めし、「しゃべらないで！」とマスクを外し、３人に囲まれた先生の笑顔は印象的だった。

そして最も印象的だったのは、コラーレの大野さんが漏らした「近年に無いお客様の反応です。ミラクルです。」の一言だった。

「邦楽地域活性化事業」として邦楽事業が始まって14年、本事業で沖縄の音楽・演奏者を紹介するのは初めてであった。14年目にして『琉楽』が客席をここまで沸かせるのを初めて肌で感じ、今回の『棚原琉楽チーム』のプログラムが全国規模でオールマイティーになっていくことを確信した『黒部市国際文化センターコラーレ』での「公共ホール邦楽活性化事業」であった。

最後に事業のレポートから大きく外れるが『琉楽』のパワフルさのエピソードを一つ。

《口説（くどぅち）》のメロディーが覚えやすいということもあるが、元々音楽好きでいらっしゃるのだろう、終演後の「振り返り」の場でコラーレの大野さんが今回の事業での色々を織り込んだ《即興口説》を「口三線」入りで披露した。

ステージで『棚原琉楽チーム』が受けた拍手に負けないヤンヤの喝采を浴びたことは言うまでもない。

アウトリーチ進行シート（富山県　黒部市）
田中　元樹（サブコーディネーター）

実施日	令和５年１月27日
実施先	富山県黒部市中央小学校
対象・実施先の情報	６年生36人（男18女15）　@音楽室　３時間目（10：30－11：15）授業45分
出演者	棚原健太（三線、歌）、町田倫士（琉球箏、歌）、大城健大郎（琉球笛）
ねらい／目標	琉球音楽の楽器や音階の紹介や「口説（くどぅち）」の即興を体験することで沖縄の音楽や文化について触れる

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
0：00	導入	担任の先生： 今日は沖縄の演奏家の方にお越し頂いています。 ビデオレターを昨日みんなで見ましたね。 それでは拍手でお迎えしましょう。 （拍手ー演奏家入室）	担任の先生ー３人入室
1：00	M1（２：00）	「湊くり節」	棚原健太（三線、歌）、町田倫士（琉球箏）、大城健大郎（琉球笛）
3：00	MC1（７：00）	棚原： はじめまして。 南の国、沖縄から来ました、歌三線奏者の棚原健太と言います。 黒部に来て寒さにびっくりしています。廊下でも息が白いなんて初めての経験です。 今日は私の故郷の沖縄の音楽を聴いて頂きたいと思います。 今日はあと二人演奏家に来ていただいています。 町田： こんにちは。 琉球箏奏者の町田倫士です。 黒部の雪景色、そして、みなさんにお逢いするのを楽しみにしていました。 今日は沖縄の音楽で沖縄に行った気分になってもらいたいと思います。 大城： こんにちは。 琉球笛奏者の大城健大郎です。 那覇から東京に、そして、東京から新幹線に乗って黒部までの道中で既に雪が見えていました。 黒部に降り立ったら本当に冷蔵庫の様に寒いですね。冷蔵庫に手を入れてみましたが、外と同じ冷たさでした！ こんなに寒いのにみなさんが外で雪だるまを作ったり雪合戦をしているのをさっき見ました。 こういった風景は私にとっては非日常です。 黒部に来てから今日で三日日ですが、黒部の美味しい料理もたくさん頂き、寒さにも慣れてきました。 棚原： さて、沖縄に行ったことある人？ （生徒：1人手挙げる） 沖縄はどこにある？？ （生徒：南！） そうですね、中央小学校から2000km南にあります。 360度海に囲まれ、あったかくてもう桜が咲いてます。 （生徒：えー！） さて、沖縄は昔違う名前でした。なんという名前だったでしょう？ （生徒：琉球！） そうです、琉球は昔は一つの王国でした。 （町田：「琉球」と書いたカードを見せる） 私達の演奏する音楽は、この王国の王様のために演奏するものでした。 沖縄は「歌と踊りの島」とも呼ばれています。 さて、次の曲は、「てぃんさぐぬ花」という曲です。 てぃんさぐとは鳳仙花の箏です。 昔の琉球の子供達は、花びらを爪先にすりつぶしてつめて遊んでいました。今で言うとネイルの様な遊びですね。 歌詞の中に、「鳳仙花は爪先に染める、親の教えは心に染める。」	各自話す時は自分の席で立つ。町田：ホワイトボードの演奏家の名前と担当楽器のシート＆「琉球」カード

3：00	MC1（7：00）	お父さんお母さんの教えはただ聞くだけではなく、心に染み込む様に染めましょう、という歌です。 とても沖縄らしい気持ちの込められた曲です。	
10：00	M2（3：00）	「てぃんさぐぬ花」	棚原健太（三線、歌）、町田倫士（琉球箏、歌）、大城健大郎（琉球笛）
13：00	MC2（11：00）	棚原： ありがとうございました。それでは今日演奏している沖縄の楽器を紹介します。 町田：では私から始めます。この大きな楽器は琉球箏と言いますが、少し見にくいと思いますので立てますね。 （箏を持ってセンターへ） さて、何センチあるでしょう？ （生徒：２ｍ！４ｍ！６m!） 正解は180センチです。 300年前に今の鹿児島県の薩摩から伝わってきました。 きりの木でできていて、13本の弦が張られていて、箏柱を立てています。 （裏を見せて）裏に穴が空いていますね。（叩いてみる）空洞になっています。 箏は日本全国同じものですが、では琉球箏は日本のお箏と何が違うのか気にならないですか？ 箏が沖縄に来て三線と出会い、一緒に曲を演奏する様になって琉球箏として三線の音色に合わせるために、弦を緩く張っているんです。 そして、（爪を見せて）この爪は四角の日本の箏の爪と違って丸いので、まろやかで優しい音色が出せます。では音色を聞いてください。 （箏を持って席へ戻る） 棚原： この箏を持って雪の中歩いてたんだよ。 町田： そうですね、これを持って新幹線にも乗りました。 ではちょっと聴いてみてください。 （弾いてみる） （生徒：拍手） 琉球箏のもう一つの特徴に弾き方があるんだけど、この様に左手で音に余韻が出る様にしています。 （弾いてみる） （生徒：拍手） 大城： では、琉球笛の紹介をします。 世界中に笛はたくさんあります。 リコーダーは縦だけど、琉球笛は横ですね。 この琉球笛は富山にある篠笛と似ています。 漆が塗られていて黒い色になっています。 琉球笛は中国から来ました。 琉球笛には６つの穴があって、ここから息を吹いて演奏します。 鋭く吹いたり優しく吹いたりする事で音の高さを調節しています。 いつも歌のサポートをしている楽器です。 それでは少し音色を聴いてもらうために「マリーゴールド」を吹いてみます。 （「マリーゴールド」の一部を演奏） （生徒：拍手） 棚原： では最後に、三線の紹介をします。 今から600年前ぐらいに中国から「サンシェン」という楽器がやってきました。 この部分、竿と言いますが、黒檀という木でできています。 沖縄は暖かくて湿気が強いので、木を守るためにうるしが塗られています。 そしてこの部分、何でできているでしょうか？ （生徒：ヘビ！） そう、よく分かったね。どんな種類のヘビか分かるかな？ （生徒：、、、） これはニシキヘビという種類のヘビの皮でできています。 今日は特別に本物のニシキヘビを持ってきています。 （生徒：えー！） （町田＆大城ニシキヘビの皮を持ってセンターへ、徐々に広げる）	町田センターへ／大城自分の席／棚原自分の席で立つ＆町田＆大城ヘビの皮広げる

13：00	MC2（11：00）	(生徒：おー！) 何メートルぐらいあるかな？ (生徒：４ｍ！８ｍ！) この皮は４ｍぐらいだけど、大きいものでは６ｍぐらいあります。では裏側も見てみましょう。 (町田＆大城ニシキヘビの皮の裏側を見せる) こちらが体の中身の部分ですね。 (町田＆大城ニシキヘビの皮の表を見せる) こちらが頭の部分で向こう側が尻尾の方で、三線はこの尻尾の部分の皮を使っています。鱗がまだ残っているのが分かるかな？ (町田＆大城ニシキヘビの皮の表を畳む) そして、右手に持っているツメは牛の角でできています。 さて、琉球の音楽の特徴に音階があります。音階って分かるかな？ (生徒：ドレミ？) そうだね。沖縄の音楽は琉球音階というものを使っています。 この琉球音階はすごいパワーがあって、どんな音楽でも沖縄っぽくなります。 例えば、みんなも知ってる「カエルの歌」。これを琉球音階で弾くこんな感じです。	町田センターへ／大城自分の席／棚原自分の席で立つ＆町田＆大城ヘビの皮広げる
24：00	M3（02：00）	「琉球音階による　カエルの歌」（１番の後の感想中「では2番は沖縄のリズムを速弾きで入れながらやるとこうなります」）	棚原健太（三線、歌）、町田倫士（琉球箏）、大城健大郎（琉球笛）
26：00	MC3（03：00）	棚原： ありがとうございました。では、みんな、「推し」の楽器ができたかな？ 箏推しの人？ (生徒：手を上げる) どういった所が気に入った？ (生徒：「手で奏でるところ」) そうだね、優しい音色だよね。 では、三線推しの人？ (生徒：手を上げる) どういった所が気に入った？ (生徒：「蛇！」) 蛇が好きなの？ (生徒：「はい！」) では、琉球笛推しの人？ (生徒：手を上げる) どういった所が気に入った？ (生徒：「音の高さが変わって綺麗だった。」) とても良い答えだね。 次の曲は、「中作田節」という曲です。 推しの楽器、そして３つの楽器が合わさったアンサンブルにも注目して聴いてみてね。	棚原自分の席で立つ
29：00	M4（02：00）	「中作田節（ちゅうちくてんぶし）」	棚原健太（三線、歌）、町田倫士（琉球箏）、大城健大郎（琉球笛）
31：00	MC4（11：00）	ありがとうございました。 沖縄の音楽には琉球の言葉、地元の言葉が出てくるので、聴いていてすぐには言葉が分からないと思います。 でも曲の内容は生活の中で出てくる風景や人の喜怒哀楽を題材にしています。 そして沖縄の音楽の特徴は、歌詞が決まってないという事です。 カエルの歌は1番や2番で歌詞が決まってるよね？ でも沖縄の音楽は歌詞が決まっていなくて、今で言うとフリースタイルとかラップと似ています。 沖縄の音楽の種類の一つに「口説（くどぅち）」と呼ばれるものがあります。 (町田：「口説」と書いたカードを見せる) この「口説」は、その場で歌詞を作っていくスタイルです。 さて、今日の沖縄の音楽を聴いて、沖縄に行きたくなった人？ (生徒：手を上げる)	棚原自分の席で立つ。 町田：「口説」カード＆ホワイトボードに書き込み

31：00	MC4（11：00）	では、ちょっとみんなでゲームをしましょう。 「口説（くどぅち）」を今から即興で作るよ！ 町田： （ホワイトボードを裏返す） ＿＿＿　口説 １、＿＿＿＿から沖縄へ＿＿＿＿にとび乗り　いざゆかん ゆらりゆられて　空港へ ２、チェックインして荷物預け＿＿＿＿立ち寄り＿＿＿＿ 買って保安検査も楽々と ３、いよいよ出発　空の旅　＿＿＿＿の＿＿＿＿頬張りて 静かにまどろむ雲の上 ４、那覇空港に着ちゃびたん＿＿＿＿つかまえていざゆかん　エイ ＿＿＿＿　＿＿＿＿　みんなで楽しく　＿＿＿＿ 棚原： では、中央小学校から沖縄へ行く「口説（くどぅち）」をみんなで作りましょう。 題して「中央小　口説」 町田： （以降、空欄を埋めていく） 沖縄で何を見たいかな？ （生徒：海！） 海だね！美ら海水族館という所があるからそこが良いかな。 沖縄に行くには羽田空港に行かないといけないんだけど、 何に乗って行こうか？ （生徒：バス！タクシー！新幹線！） そうだね､新幹線！「いざゆかん」はレッツゴーってことよ。 空港着いたね。東京から沖縄まで飛行機で３時間かかるんだけど、お腹が空くから何か買っていこう。 みんな、好きなコンビニある？ （生徒：セブン！ローソン！ファミマ！） じゃあ、ファミマにしよう。ファミマで何食べたい？ （生徒：おにぎり！弁当！ファミチキ！） 僕もファミチキ好きだからファミチキにしよう。 では出発。「頬張りて」はどういう意味か分かる？ （生徒：食べる？） そうだね、食べるということ。さっき買ったファミチキ食べて空の上です。「まどろむ」はウトウトするということだよ。 「着ちゃびたん」は着いたということなので、沖縄に着きました。美ら海水族館は那覇空港から少し遠いところにあるんだけど、どうやって行こうかな。 （生徒：バス！タクシー！電車！） タクシーだと結構高くなっちゃうから、レンタカーで行こうか！ 「エイ！」というのは口説で良く出てくる掛け声なんだけど、これで曲の最後という合図でもあるんだよ。 さあ、車から外には何が見えるかな？ （生徒：海！！サトウキビ！） サトウキビ良いね！着いたら何しようか？ （生徒：お魚見る！） そうだね！中央小口説出来上がりました。ではみんなで読んでみましょう！ （生徒：演奏家と一緒に全員で読む） 中央小　口説 １、中央小から沖縄へ　新幹線にとび乗り　いざゆかん ゆらりゆられて　空港へ ２、チェックインして荷物預けファミマ立ち寄りファミチキ買って保安検査も楽々と ３、いよいよ出発　空の旅　ファミマのファミチキ頬張りて静かにまどろむ雲の上 ４、那覇空港に着ちゃびたんレンタカーつかまえていざゆかん　エイ 外の景色は　サトウキビ　みんなで楽しく 魚見よう では、中央小口説、これから演奏します！世界初演です！	棚原自分の席で立つ。 町田：「口説」カード＆ホワイトボードに書き込み
42：00	M5（03：00）	「中央小口説（くどぅち）」	棚原健太（三線、歌）、 町田倫士（琉球箏）、 大城健大郎（琉球笛）

45：00	MC5（05：00）	棚原： ありがとうございました。 今日は沖縄の音楽を演奏しましたが、沖縄の音楽、文化の事を知って、沖縄に行きたいなと思ってくれたら嬉しいです。 そして、黒部にも地元の音楽があると思います。自分達の音楽や文化ってなんだろうな、と考えてくれたら嬉しいです。 短い時間でしたが、また黒部に来たいと思います。 ありがとうございました。 担任の先生： みなさん、今日はとても素晴らしい機会を頂けましたね。 せっかくお越し頂き、まだ少しお時間あるので、誰か質問ある人はいますか？ 音楽のことでも、楽器沖縄の文化や衣装のについてでも良いですよ。 （生徒１：琉球笛は、どんな木でできていますか？） 大城： 竹です。篠竹やめ竹という日本本土の竹でできています。 良いものは3年間寝かせてから作られています。 （生徒２：琉球笛にはうるしが塗られていますか？） 大城： はい、かっこいいですよね。 音色にも艶が出ます。 （生徒３：三味線、じゃなくて、三線の上に付いてるものはなんですか？） 棚原： これはカラクリと言います 糸を巻くもので強く、弱く巻きます。 ちなみに三味線と言っていたけれど、三味線のルーツが三線です。 そして、この三線のカラクリは三味線と逆に付いています。 （生徒４：琉球箏はいくらしますか？） 町田： 高いものでは400万円ぐらいするものがありますか、今日持ってきているものは100万円ぐらいです。 担任の先生： それでは、お礼の言葉を言いましょう。○○さんお願いします。 （生徒５：今日は沖縄の楽器の事や音楽について教えてくれてありがとうございました。沖縄に興味を持ちました。） （生徒６：今日は沖縄の文化について教えて下さってありがとうございました。沖縄の文化に触れられてとても良い経験になりました。 担任の先生： はい、それではもう質問もなさそうですね。みなさん、本日は本当にありがとうございました！	担任の先生、終演後全員退室

実施団体：公益財団法人練馬区文化振興協会
実施時期：令和５年２月２日（木）～令和５年２月４日（土）
出演アーティスト：棚原健太（歌三線） 町田倫士（琉球箏） 入嵩西 諭（琉球笛）

アクティビティ

タイトル：アウトリーチ①
期　　日：令和５年２月２日　10：30～11：15
会　　場：ハートフルコート石神井　食堂
参 加 者：20名（利用者15名、施設職員５名）

比較的介護度が低く、元気な高齢者が多い施設。過去に主催事業で演奏家を派遣したことがある。利用者が「住んでいる」感覚で過ごせることを大切にしている施設であり、下見の段階から本番に至るまで終始アットホームで和やかな雰囲気に包まれた事業となった。出演者が考案した振付で音楽にあわせ体操をする場面では、会場に一体感が生まれとても効果的だと感じた。

タイトル：アウトリーチ②
期　　日：令和５年２月２日　13：45～14：30
会　　場：光が丘デイサービスセンター　機能回復訓練室
参 加 者：24名（利用者18名、施設職員６名）

介護度がやや高い高齢者が多い施設。ハートフルコート石神井と同じく何度か演奏家を派遣したことがあり、今回実施協力を依頼した。施設の感染症対策に沿って、公演当日に出演者と関係者全員が抗原検査を実施し、また視察人数を制限するなど事業実施にあたり準備を慎重に行った。公演当日は、現場の施設職員が大いに盛り上げてくれ、大変充実した内容で終わることができた。

タイトル：アウトリーチ③
期　　日：令和５年２月３日　９：40～10：25
会　　場：南町小学校　視聴覚室
参 加 者：４年１組　37名
（生徒35名※オンライン参加１名、教員２名）

練馬区内小学校でのアウトリーチ。小学４年生は成長過程の中でも低学年から高学年の過渡期にあたり、知識欲や行動欲が芽生える時期であることから、最もワークショップの効果が期待できるため本事業の対象とした。生徒とともにオリジナルの口説を創作する場面では､生徒たちの好奇心や創作意欲を大いに刺激したように思う。もう少し時間があれば､体を動かすプログラムを加えても良かった。

タイトル：アウトリーチ④
期　　日：令和５年２月３日　11：35～12：20
会　　場：南町小学校　視聴覚室
参 加 者：４年２組　31名（生徒29名、教員２名）

練馬区内小学校でのアウトリーチ２クラス目。１クラス目に比べ、活発な児童が多かった印象だが、最後までしっかりと集中して参加できていた。オリジナルの口説を創作する場面で大いに盛り上がった。もう少し時間があれば､体を動かすプログラムを加えても良かったように思う。また、本物の蛇皮が登場した際には１クラス目同様に興味津々な様子で、嬉しそうに触っていた。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：いちゃりばちょーでー　～琉球の風にのって～
期　　日：令和５年２月４日　14：00～15：30
会　　場：大泉学園ゆめりあホール
参 加 者：141名（予定枚数終了）

音楽ホールでのコンサート。いわゆる沖縄ポップスのような曲を加えず、琉球古典音楽や沖縄の民謡を中心とした内容で、沖縄の土地や人々に根付く豊かで美しい伝統や文化をしっかり紹介できたように思う。曲間のMCや、楽器や特徴的な琉球音階を紹介する場面では、沖縄の言葉独特のイントネーションも相まって３人の人間味が溢れ、ホール全体が温かい雰囲気に包まれていた。

ホール担当者の意見・評価
練馬文化センター　事業係　五田　詩朗

① 応募の動機・事業のねらい

練馬文化センター（公益財団法人練馬区文化振興協会）では、クラシック音楽、ジャズ、古典芸能、演劇など様々なジャンルの公演事業を展開しているが、邦楽によるアウトリーチやコンサート事業はこれまでしっかりと取り組んだことがなかったため、館として新たな可能性を切り拓くきっかけとして、本事業に応募した。

② 企画のポイント

本事業が、沖縄音楽の特徴的な楽器や音階を紹介するだけのものではなく、音楽をコミュニケーションツールとして、多くの人々が、演奏家の人間的な魅力や、彼らの背景にある琉球王国から今の沖縄に受け継がれる伝統や文化に触れる機会となることを目指した。コンサートPRにあたっては、できるだけ多くの人々に身構えず気軽に聴きに来てほしいという狙いから、「古典」「伝統」などのフレーズを前に出しすぎず親しみやすくポップなビジュアルイメージとし、チケット価格も500円という安価に設定した。その結果、発売から１か月程度でほぼ完売となった。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

沖縄音楽には、特徴的な音楽スタイルである「口説」をはじめ、独特な音階、背景にある歴史、文化など、魅力的な要素が多く、それらをアクティビティやコンサートにどうのように落とし込んでいくかイメージをまとめるのに苦労した。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

コーディネーターをはじめ、地域創造のみなさまの助言や協力のおかげで、沖縄音楽の魅力的な要素をバランスよく盛り込んだプログラムを組むことができた。

⑤ 事業を実施しての成果

アウトリーチでは、高齢者施設では沖縄の舞踊をモチーフにした「体操」を取り入れたり、小学校ではオリジナルの「口説」を創作するなど、限られた時間ではあったが音楽を通して沖縄の伝統や文化の魅力の一端を体感するとても良い機会となったと感じた。

コンサートでは、伝統的な琉球古典音楽から人々の暮らしに根付いた民謡まで、幅広い内容を演奏家が丁寧に紹介し、沖縄音楽の美しさとともに、その背景にある豊かな伝統や文化の魅力も存分に堪能することができた。

⑥ 事業を実施しての反省点・課題

宿泊施設の手配が遅くなり、希望の宿泊先が確保できない可能性があった。移動手段と併せて、宿泊先の確保は最優先に行わなければならないと感じた。

⑦ 今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

プレゼンの時から、沖縄音楽と３人の演奏家が持つ絶対的な魅力に疑いようはなかったが、それが練馬の人々にうまく伝わるかどうかは少し不安であった。しかし、最後のコンサートを終えて多くの好評の声が寄せられたことから、練馬の観客の懐の深さを感じた。これまで練馬文化センターが取り組んできた様々な公演事業を通じ、豊かな観客層が醸成されていたことを再確認することができた。

コーディネーターレポート
伊藤　由貴子

今回の棚原チームは、本邦楽事業初の琉球伝統音楽の演奏家たちです。彼らが、冬でも20℃という沖縄から、富山県黒部市（56ページ参照）と東京都練馬区という、地域性も気候も異なる２か所でプログラムを実施していったそのプロセスには、戸惑うこと、煮詰まることも少なくなかったかもしれません。しかし、東京で行った黒部・練馬合同実地研修をスタートラインに、各地でのアクティビティを重ねるごとに、プログラムには磨きがかかっていきました。各地の主催者、参加者、鑑賞者を魅了しつつ、練馬のホールコンサートに至るまで、琉球の風をなびかせて走り切った棚原チームに、まず大拍手を送りたいと思います。

１、スタートライン

主催者である（公財）練馬区文化振興協会（以下「練馬区」と記します）の企画意図は、これまでの練馬区での事業では紹介したことのない琉球音楽の世界と、その背景にある沖縄独自の文化に触れる機会を区民に提供し、同時に、音楽や文化を体現する演奏家自身の魅力も伝えたい、というものでした。初めてこの事業に参加するリーダーの棚原さんは、沖縄以外の地域に、琉球音楽をきちんと紹介し、沖縄の文化を伝えることをめざしていました。つまり、音楽･文化･人の三位一体が琉球音楽の魅力を作っている、という認識が今回のベースになったと思います。

キックオフとなったzoomミーティングでは、こうした明快な意図を踏まえつつ、「心を開いて、アーティスト、スタッフ、お客様みんなが楽しめることをめざそう」「そのためには、笑いやユーモアも大事」ということを共有しました。

２、実地研修は合同で

今回連続した日程で、同じアーティストが２か所の地域に赴くこと、しかもアーティストが日帰り不可の沖縄在住、ということで、実地研修は年明け早々の１月９日、10日の二日間にわたり合同で実施することにしました。新宿花伝舎に、アーティストと、黒部、練馬それぞれのコーディネーター、サブ･コーディネーターが集い、両地域のアクティビティーの基本形となる「小学校向けプログラム」作りに取り組みました。伝えたいことは何か、この構成や言い回しで伝わるか、わくわくするか、予定時間内に収まるかなど、ランスルーと意見交換をしながら、ブラッシュアップしていきました。

３、地域アクティビティの工夫

練馬区のアクティビティは､高齢者施設２カ所（デイサービスとグループホーム）と､小学校１校（４年生２クラス)。主催者である練馬区では、従来の事業を通じて地域の施設や学校との連携がしっかり作られており、おかげで、本事業の準備も本番もスムーズに進行しました。

高齢者施設では演奏鑑賞、楽器紹介、琉球体操を、小学校では演奏鑑賞、楽器紹介、口説づくり体験を、構成の大きな柱とし、そこにさまざまな工夫を盛り込んで実施となりました。

高齢者施設のテーマは「沖縄のお家に招かれた気分で沖縄の音楽を体感しよう」。

棚原さんたちには、沖縄文化である「長寿を敬う気風」が染み込んでいて、音楽も語り口もたいへん自然体で温かく、めざしたとおりのおもてなしの時間が実現しました。

登場したのは、音楽と共に体を動かすことで更に音楽を身近にしていただこうと棚原さんが考案した

「琉球音楽体操」。彼のリードで、琉球箏、笛の演奏にあわせ、足踏みや手振りを順に行っていくもの。沖縄のカチャーシーの手ぶりも織り込まれ、ゆったりとしつつもそれなりに運動量もあり、琉球音楽のリズムや沖縄の空気を感じられる仕上がりでした。高齢者施設では日常的に体操を行っているので、もしこれが今後の定番体操となったとしたら、さぞ楽しいことだろうと思います。また、２月にお誕生日を迎える方をあらかじめリサーチしておき、祝い唄を演奏。めでたいな、めでたいな、と盛り上がりました。

一方、小学校では、「歌詞が自由」という琉球音楽の特徴を実感してもらおうと、子どもたちが「口説」づくりに挑戦。学校から沖縄までの道中を示す歌詞を、あらかじめ、乗り物、食べ物などの部分をブランクにしてホワイトボードに書きだしておき、子どもたちと対話しながらブランクを埋め、出来上がった「南町小学校口説」を演奏する、というもの。

「コンビニ唐揚げ」や「美ら海水族館」など子どもたちのアイディアが盛り込まれたこの「口説」は大好評でした。

この他、小学校での細かな工夫として、耳で聞いただけではわかりにくい「琉球」「口説」等をパネルにして掲げて見せたり、背後に置いたホワイトボードに掲示したりしました。

全編通してお客様の心をつかむ目玉となったのは、楽器紹介の時に登場させた「ニシキヘビの皮」。三線の皮の、加工前の実物をそのまま見せる、という趣向。棚原さんが普段お世話になっている三線組合に相談し、無料で借りうけてきたそうです。４ｍ余りのニシキヘビの皮の巨大さと、マスクをしていてもわかるその匂いは、各会場で大きなインパクトとなり、後述する最終日のホール公演でも大うけでした。

また、琉球旋律の「威力」を示すため、輪唱で知られる「カエルの歌」を琉球音階で歌ってみるコーナーでは、南国のカエルが鳴いているようなおかしみと長閑さで、会場を和ませました。

４、ホールコンサート

コンサートのタイトル「琉球の風にのって～いちゃりばちょーでー～」とは、「いちど出会った人はみな兄弟」という沖縄の言葉です。

コンサート前半は、琉球王国時代の古典音楽を琉球王朝時代の正式な装束で、後半は民謡も含めた沖縄の風土に染み込んでいる音楽をすこしカジュアルな着物姿で演奏。いずれもトークを交えた進行で、楽器の説明や、アクティビティでも人気だった「ニシキヘビの皮」と「カエルの歌」も再登場。沖縄から練馬に来るまでの地元ネタ入り「口説」も披露されました。タイトルにふさわしく、沖縄の親戚の家にいて、琉球音楽ライブを聞いているような、リラックスして楽しめる企画となりました。

小さな、しかし大事な工夫として、プログラム冊子には、曲目解説とプロフィールの他に、歌われる歌詞の一部と、主催者の練馬区のアイディアで作成した「出演者へのＱ＆Ａ」が挟み込まれました。前者は沖縄の言葉に親しんでもらう助けになり、後者を通してアーティストの人柄がより身近になったことと思います。

５、最後に

地域アクティビティで出会った高齢者の方々、子どもたち、ホール公演にいらしたお客様の区別なく、「沖縄に行ったことがある人！」と聞くと、意外なほど多くの手があがりました。沖縄観光はそれほどにポピュラーになっているのです。したがって、そうした下地の上に、本質的な音楽文化を紹介する機会さえ提供できれば、それが、更なる興味関心、理解、楽しみの広がりへと、確実につながっていくのだと思います。私はその可能性を強く感じました。

アーティストにとっては、ふだん地元沖縄で琉球音楽の演奏をするのとは異なり、首都圏の小学生や地域の人々を対象に、魅力が伝わるような手法を試行錯誤する経験は、自らの音楽と文化を客観視する機会にもなったのではないか、と思います。これは、今後の彼らの、そして琉球音楽の展開に、直結していく成果だと思います。

私自身は、当初、琉球音楽をあたかも外国の音楽であるかのように語ってしまう場面に戸惑うこともありました。しかし本事業を通じて、棚原さんたちの音楽と人間性に接しながら、広く東アジアの文化圏で日本の音楽がどのように育まれたかについて改めて思いをはせることができました。今回の出会いにより、日本という国に存在する音楽の多様性を伝える「琉球音楽という引き出し」を再発見できたことは、本当に喜ばしいことです。そして、「いちゃりばちょーでー」の心は、今後の地域創造の事業を支えるキーワードの一つになるように思います。

アウトリーチ進行シート（東京都　練馬区）
丹羽　梓（サブコーディネーター）

実施日	令和５年２月２日
実施先	ハートフルコート上石神井
対象・実施先の情報	対象：施設入居者　15名 食堂で実施
出演者	棚原健太（歌三線）・町田倫士（琉球箏）・入嵩西諭（琉球笛）
ねらい／目標	沖縄のお家に招かれた気分で沖縄の音楽を体感しよう

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
０：00	自己紹介 M1の紹介 （３：00）	・棚原、町田、入嵩西の順に自己紹介 ・『かぎやで風』について	一人ずつ自己紹介
３：00	M1　かぎやで風 （４：00）	棚原（三線）、町田（琉球箏）、入嵩西（琉球笛）	
７：00	・沖縄の音楽について ・M2の紹介 （３：30）	・沖縄には、琉球古典音楽、沖縄民謡、沖縄ポップスなど様々な音楽がある ・『てぃんさぐぬ花』について	棚原MC
10：30	M2　てぃんさぐぬ花 （３：00）	棚原（三線）、町田（琉球箏）、入嵩西（琉球笛）	
13：30	・楽器紹介 ・琉球音階について ・M3について (14：00)	・琉球箏について（材質、爪の形） ・琉球笛について（材質、漆が塗られている） ・三線について（材質、ニシキヘビの皮見せる） ・琉球音階について（琉球音階でカエルの歌） ・『いちゅび小』について	町田、入嵩西ニシキヘビの皮を広げる
27：30	M3　いちゅび小 （２：00）	棚原（三線）、町田（琉球箏）、入嵩西（琉球笛）	
29：30	・音楽で体操コーナー （８：00）	・沖縄の踊りの動きを取り入れた体操をみんなで行う ・演奏に合わせて体操	棚原MC・体操 町田（琉球箏）、入嵩西（三線）
37：30	・お誕生日のコーナー （２：00）	・2月誕生日の参加者へお祝いの言葉 ・沖縄の長寿をお祝いする文化を紹介 ・めでたい節について	棚原MC
39：30	M4　めでたい節 （２：00）	棚原（三線）、町田（琉球箏）、入嵩西（琉球笛）	
41：30	・終わりの挨拶 （１：00）	・お誕生日おめでとうございます！ ・今日はありがとうございました	

実施団体：公益財団法人座間市スポーツ・文化振興財団
実施時期：令和５年２月21日（火）～令和５年２月23日（木・祝）
出演アーティスト：川田健太　谷富愛美　風間禅寿

アクティビティ

タイトル：栗原小学校アウトリーチ
期　　日：令和５年２月21日（火）　11：35～12：20
会　　場：栗原小学校　音楽室
参 加 者：６年２組28名

アーティスト３名による邦楽授業。使用楽器は箏、十七絃、三味線、尺八。楽器の説明（形状、素材、名称、弾き方等）、演奏（曲目：「紅蓮華」「八千代獅子」「越後獅子」「千鳥の曲」「EL SARBADOR（エルサルバドル）」、和楽器音当てクイズ「ひぐらし」「鶴」）

初めてのクラスということもあり、アーティスト・生徒ともに少し緊張気味でスタート。冒頭にアニメのテーマソングで生徒たちの心をぐっと鷲掴(わしづか)みに。鑑賞やクイズと進行していくうちに、緊張がほぐれ、体を揺らしながら音を楽しんでいる生徒も多かった。

タイトル：栗原小学校アウトリーチ
期　　日：令和５年２月21日（火）　13：50～14：35
会　　場：栗原小学校　音楽室
参 加 者：６年１組27名

アーティスト３名による邦楽授業。使用楽器は箏、十七絃、三味線、尺八。楽器の説明（形状、素材、名称、弾き方等）、演奏（曲目：「紅蓮華」「八千代獅子」「越後獅子」「千鳥の曲」「EL SARBADOR（エルサルバドル）」、和楽器音当てクイズ「ひぐらし」「鶴」）

楽器の説明などに興味津々だった生徒たち。アーティスト持参の楽譜を皆で覗き込んで、「うわあ、読めない」「いつもの楽譜と違う」と歓声を上げていた。

タイトル：栗原小学校アウトリーチ
期　　日：令和５年２月22日（水）　９：40～10：25
会　　場：栗原小学校　音楽室
参 加 者：６年３組25名

アーティスト３名による邦楽授業。使用楽器は箏、十七絃、三味線、尺八。楽器の説明（形状、素材、名称、弾き方等）、演奏（曲目：「紅蓮華」「八千代獅子」「越後獅子」「千鳥の曲」「EL SARBADOR（エルサルバドル）」、和楽器音当てクイズ「ひぐらし」「鶴」）

静かに演奏を鑑賞する生徒が多い。演奏者の手元をじっと見つめたり、目を閉じて音に集中する様子が見受けられた。

タイトル：栗原小学校アウトリーチ
期　　日：令和５年２月28日（水）　11：35～12：20
会　　場：栗原小学校　音楽室
参 加 者：６年４組31名

アーティスト３名による邦楽授業。使用楽器は箏、十七絃、三味線、尺八。楽器の説明（形状、素材、名称、弾き方等）、演奏（曲目：「紅蓮華」「八千代獅子」「越後獅子」「千鳥の曲」「EL SARBADOR（エルサルバドル）」、和楽器音当てクイズ「ひぐらし」「鶴」）

先生が「こんな機会は滅多にないから、みんなで楽しもう！」と力説してから授業開始。それを受けて生徒たちも終始リラックスし、リズムをとりながら演奏鑑賞するなど積極的に授業に参加した。

コンサート又は公募型ワークショップ等

タイトル：川田健太・和楽器コンサート「和のしらべ　こと始め」
期　　日：令和５年２月23日（木・祝）　14：00～16：00
会　　場：ハーモニーホール座間・小ホール
参 加 者：167名

和楽器を用いたコンサート。第１部は古典曲を、第２部はモダンな曲を演奏するなど内容を工夫した。「大人も子どもも楽しめる！」として、曲間の解説を丁寧にすることで初心者やこどもでも楽しめる公演とした。

演奏曲：【第１部】：「越後獅子」「木枯」「赤壁の賦」【第２部】：「壱越」「三つのパラフレーズ」「El Salvador（エルサルバドル）」

ホール担当者の意見・評価
文化事業班　中野　九夢

① 応募の動機・事業のねらい

【アウトリーチ】

コロナ禍の状況において、ホールで実施される子ども向けの文化行事自体の減少・規模縮小、学校での音楽授業の制限が続いていた。地域における芸術文化の将来の担い手である子どもたちに向け、少人数で実施できる生の芸術体験アウトリーチを提供したいと考えた。

【ホール公演】

公共ホールとしてさまざまな文化芸術を提供できるようにしたいと考えていたところであり、邦楽については最後に実施した邦楽公演が平成29年１月の公演であったため、開催を希望した。

② 企画のポイント

こどもも大人も、みんなで楽しめることをコンセプトに、楽しく気軽に聞くことのできる邦楽事業を目指した。

【アウトリーチ】

座間市内の栗原小学校で実施。６年生４クラス（計108名が参加）を対象に、演奏、楽器の説明、クイズなどを盛り込んだ授業を実施。

【ホール公演】

ハーモニーホール座間小ホールにて開催。こども向けチケット料金を設定し、親子で楽しめるようにした。十分な説明を入れるなどプログラム構成を考慮し、邦楽初心者でも気軽に足を運べるような演奏会とした。

③ 企画実現にあたり苦労（問題となった）した点

【アウトリーチ】

１．もともとは２校にて４授業実施を希望していたものの、座間市の小学校は人数が多いため、１学年で実施することは難しいとの声が学校から寄せられた。
２．実施希望校が複数あった。

④ 上記③をどのようにクリアしたか

実施校を２校から１校のみとし、再度小学校に宛てて募集内容変更のお知らせを配布した。最終的に、立野台小学校と栗原小学校の２校が応募し（それぞれ６年生４クラスでの授業を希望）、公平を期すため、教育委員会の立ち合いのもとで抽選を実施した。落選した立野台小学校に対しては、落選の通知送付および担当の先生にお詫びの電話を入れることで対応した。

⑤ 事業を実施しての成果

【アウトリーチ】

箏の演奏を初めて聞くという子どもたちも多く、普段なかなか体験できない和楽器の演奏を子どもた

ちに鑑賞させることができたと先生方からも感謝の声をいただいた。生の演奏に触れ、また年の近い若いアーティストの活躍を目の当たりにすることで、芸術を楽しむ豊かな心を育む一助になったと考えている。

【ホール公演】

最終的に予想を超える167名もの来場者があった。アンケート結果や来場者の方からの声がけからも、潜在的な集客力があること、邦楽鑑賞のニーズがあることがわかった。解説を多く取り入れ、初心者でもわかりやすいようにプログラムを組んだことに対し、高評価が得られた。

⑥　事業を実施しての反省点・課題

事業の運営について、担当者として認識不足の点があり、主体的に動けなかったり、初動が遅かったりした。（例：コーディネーターやサブコーディネーターとの業務分担などの理解があいまいであり、決定が遅くなり、それが、事業全体へと波及してしまった。）

また、邦楽公演に関連する準備（例：和楽器を扱う場合、専門業者である楽器店に作業を依頼しなければならないことなど）についても知識が足りなかった点があった。

邦楽の専門家・演奏家を招いて実施した事業であったので、もう少し事前に詳細を詰め調整して臨むべきであったと反省している。

⑦　今回の事業を通じて、自身の「地域」または「ホール」について改めて考えたこと

邦楽の分野は、芸術文化水準が高く、音楽的歴史も長いため、高度な専門的知識が必要とされる。公演を開催する会館側でも、高い専門的知見、そしてその魅力を伝えるための技術が必要となる。今回の事業を通じ、座間市においても、プロによる本物の演奏を聴きたいという要望があることがわかった。職員の邦楽事業スキルの底上げを図り、地域住民に対して魅力的な邦楽事業を継続していくことができたらと考えている。

コーディネーターレポート
米澤　浩

嬉しいお客様

令和４年度神奈川県座間市の『ハーモニーホール座間』での「公共ホール邦楽活性化事業」を担当したのは、箏・三味線の「川田健太：かわだ けんた」さんがリーダーとなり、箏・十七絃の「谷富愛美：たにとみ まなみ」さん、尺八の「風間禅寿：かざま ぜんじ」さんの『川田チーム』で、４年度の邦楽事業は新潟県魚沼市に続き２事業目だった。

【実地研修】

「個別研修（現地下見）」が前年の11月に行われ３ヵ月以上も間が空いたため事業の全体スケジュールの再確認も含めて行った。『川田チーム』は彼らのアウトリーチ（OR）プログラムの骨子を固めているためポイントのブラッシュアップや子ども達の視線の誘導、そして今回は神奈川県座間市で実施することを踏まえた確認と修正を行った。

『川田チーム』はORプログラムで邦楽器が表現している色々なもの（生き物・自然・人の気持ち）を子ども達とやり取りしながら「楽器紹介」の中で伝え、それぞれの感じ方で自由に感じて欲しいと願いプログラムを構成している。箏はヒグラシの鳴き声や波と戯れる千鳥に海辺の風景、尺八は鶴の鳴き声、三味線は人々が心を躍らせ弾ませる心情まで表現していることを伝えているが、ここに悩ましい問題がある。波の音や海の様子は「海無し県」でも伝わる可能性はあるが、「生き物」の鳴き声の印象や記憶はORに触れる子ども達が住む土地によって大きな違いがあることを踏まえる必要がある。これは彼らが全国展開して行く時のポイントになるだろう。

２月の中旬、事業実施の直前であったが『座間チーム』の「実地研修」２回目に『川田チーム』は魚沼での経験を踏まえて当初考えていた「楽器紹介」の一部を変更して試演に臨んだが、あえてそれを当初の構成に戻して再度チャレンジするようリクエストした。ORを実施する地域によって影響を受けそうな要素であっても「練りに練った内容」を１度の実施経験で変更してしまうのはもったいなく思い、二度三度と実施したうえで再検討して欲しいと思った。

時間を掛けて検討したのはホールプログラム（HP）の構成とMCの内容だった。今回『ハーモニーホール座間』では《和の調_ことはじめ》と銘打ってホール公演を企画なさり、チラシには〈現代邦楽を担う若いアーティストが解説付きで熱演。新発見･再発見あり！〉〈クールジャパン。知らないままじゃもったいない！〉等のリードコピーでアピールして下さった。

「大人も子どもも楽しめる！」というコンセプトに応えるためには、「初めて邦楽器の演奏を聴かれるお客様にとって楽器の話も少しはあった方が良いのでは？」、「家族ぐるみで楽しめるコンサートにするため３人で和気あいあいとお話しする場面があった方が良いのでは？」等々の意見が出て、MCの内容はもちろんその配置や分量・バランスも考えることに時間を掛けた。

【ORの実施】

今回の事業に向けて『ハーモニーホール座間』では座間市立小学校校長会で事業説明をなさってOR実施希望校の募集をなさったところ、大規模校２校が手を挙げて下さり、厳正な抽選を行って座間市立栗原小学校の６年生を対象に４回のORを実施することが決まった。

「個別研修」で同校でも打ち合わせをさせて頂いていたが、当日同校の音楽室に伺うと万全の受け入れ準備が整えられていたことに驚いた。ステージを設営するエリアからは黒板や壁に貼り出されていた

物が全て撤去されて黒板までも綺麗に掃除されていたことは稀有な経験で、栗原小の本事業への期待などを感じただけでなく、『ハーモニーホール座間』のプロデューサー中野さんの緻密な準備打ち合わせの中、事業の実施趣旨を校長会の先生方に丁寧に紹介して下さっていることを感じた受入れ体制であった。

当初予定していたモニターテレビがプロジェクターに変更されたため投影する画像の明度に不安もあったが、逆にスクリーンを設置したことで端に移動しておいて頂いたピアノを隠すことが出来、結果としてアーティストが「音楽室に日常には無い空間を作り出す」一助となった。

『川田チーム』は魚沼での経験を活かして手を振りながら和やかに入場し、《紅蓮華》で導入して行くORプログラムは魚沼と同様にオープニングから子ども達の興味を掴んでいた。楽器紹介で箏が「ヒグラシの鳴き声」を表現することを紹介した時にクラス毎に「ヒグラシの鳴き声」に対しての認識度が異なっていたことが興味深かったが、『川田チーム』が子ども達とのコミュニケートを進めながら「邦楽器の響き」や「表現しているもの（世界）」そして「音楽の感じ方は自由であって欲しい」ことも子ども達に伝え、最後に《エルサルバドル》を演奏するORプログラムは「邦楽器（邦楽奏者）の今」も伝える内容で、安定感も感じるようになっていた。

【HPの実施】

初日のORから戻ってきた夕方、HPに向けて舞台技術さんとの対面打ち合わせを開始させて頂いたが、演奏者がイメージしているステージを実現するために舞台技術さん達全員が全面的にサポートして下さったことが本当にありがたかった。２日目のOR終了後の午後の確認では、翌日のGP（ゲネプロ）に向けての準備を万端整えることが出来たお蔭で、当日のGPでの調整はアーティストのMC運びの微調整のみで非常にスムーズに本番に向けての確認を進められた。

そして当日。開場して開演前10分をきった頃だったか、用意していた150部のパンフレットでは足りなくなりそうになり地域創造の児玉プロデューサーにまで手伝って頂いて急ぎ「挟みこみ」を行ってパンフレットを追加する作業は初めてだった。当初の「読み」を越えるお客様のご来場は嬉しい限りで、『ハーモニーホール座間』の中野さんはじめ皆さんのご尽力を感じるエピソードとなった。

又、ホワイエには栗原小学校でのORの様子をポスターにして展示紹介して下さっていたが、スマホでポスターの写真を撮っているお客様がいらしたことも印象深かった。

これも開演前のことだが、事業ご担当の下田さんから「栗原小の生徒らしい子が来場している」との情報、急ぎアーティストに伝えて第２部でのMCに織り込むよう提案した。古典を中心とした第１部から趣を一変させた第２部が始まり、２部１曲目の後のMCで『川田チーム』３人が舞台に揃って栗原小学校でORを行って来たことをお客様に紹介した後、「栗原小学校のお友達はいらしてますか？」と会場に振った時、客席中央部の前列から４・５列目に座っていた男の子が勢いよく手を挙げてくれた。

『川田チーム』のORを鑑賞した栗原小の生徒さんの来場、本当に嬉しいお客様の来場だった。

終演後にホワイエで『川田チーム』がお客様をお見送りする中、そのお客様は記念にパンフレットに３人のサインをもらい、アーティストと４人で並んでお母様のスマホで記念撮影をしていた笑顔は印象的だった。邦楽器を好きになって欲しい！邦楽器にチャレンジして欲しい！と願うひとコマだった。

【振り返り】

終演後の振り返りで、事業のご担当者が予想なさっていた入場者数を大幅に超えるお客様がご来場下さったことが話題となり、改めて今回の事業実施に向けた皆様方のご尽力を感じた。

又色々と伺う中、『ハーモニーホール座間』ではこれまで「邦楽」を取り上げた経験がほぼ無かったが、近隣にお住いのお客様から終演後に「こういう公演をもっとやって欲しい。」とお声掛け頂いたとの話も伺い、「公共ホール邦楽活性化事業」の可能性や必要性を再確認するエピソードとなった。

アウトリーチ進行シート（神奈川県　座間市）
丹羽　梓（サブコーディネーター）

実施日	令和５年２月21日
実施先	座間市立栗原小学校
対象・実施先の情報	６年２組　31人
出演者	川田健太（箏・三味線）、谷富愛美（箏・十七絃）・風間禅寿（尺八）
ねらい／目標	邦楽の可能性

時間	内容（Lap）	具体的に行うこと、話す内容	配置・動き等
０：00	M1　紅蓮花 （２：00）	川田（箏）、谷富（十七絃）、風間（尺八）	
２：00	自己紹介 （１：30）	・今日は箏、十七絃、三味線、尺八という日本の伝統楽器の演奏を届けにきました ・自己紹介をします	川田MC それぞれ自己紹介 スライド：名前・楽器名
３：30	楽器紹介 （６：30）	・尺八紹介（材質、穴の数、長い尺八の方が音が低い） ・三味線紹介（材質、弾き方） ・箏、十七絃紹介（材質、柱を動かして音の高さを変える）	谷富MC 箏紹介の時は風間、川田が箏と十七絃を立てて子ども達に見せる スライド：撥、柱画像
10：00	何の音でしょうクイズ （２：40）	・箏　どちらの鳴き声でしょう（１．ヒグラシ、２．ミンミンゼミ） ・尺八　どちらの鳥でしょう（１．ツル、２．キツツキ）	箏クイズ　川田MC 尺八クイズ　風間MC スライド：クイズ表示
12：40	八千代獅子について （１：10）	・獅子は獅子舞のこと ・めでたい場面の人の気持ちや様子を表現した曲	MC　川田 スライド： 曲名、獅子舞写真
13：50	M2　八千代獅子 （４：00）	三味線（川田）	
17：50	千鳥の曲について・クイズ （１：20）	・情景を表した曲 ・どの情景を表しているでしょう（千鳥・波・海）	MC　谷富 スライド： 千鳥・波・海
19：10	M3千鳥の曲 （５：40）	箏（谷富）	
24：50	千鳥の曲クイズの答え （１：20）	・正解は海、波、千鳥　全部です ・いろいろな情景が思い浮かんだと思います ・音楽を自由に感じてほしい	MC　谷富 スライド：曲名
26：10	越後獅子について （２：10）	・八千代獅子と同じ獅子舞の曲 ・八千代獅子は三味線だけの演奏、越後獅子は箏、三味線、尺八で演奏 ・越後の人々が獅子舞を見た時の気持ちや様子を表現した曲	MC　風間 スライド：曲名
28：20	M4越後獅子 （５：10）	箏（谷富）・三味線（川田）・尺八（風間）	
33：30	エルサルバドルについて （２：20）	・今日演奏した４曲は日本の情景や人々の気持ちを表現した曲 ・エルサルバドルはブラジルの近くの国名、暖かい国 ・エルサルバドルの情景や人々の気持ちを表現した曲	MC　風間 スライド：曲名
37：50	M5エルサルバドル （４：10）	箏（川田）・十七絃（谷富）・尺八（風間）	
42：00	ご挨拶 （１：10）	・ありがとうございました！	川田・谷富・風間

令和４年度
公共ホール邦楽活性化事業報告書

発行：一般財団法人地域創造
〒107-0052
東京都港区赤坂2-9-11　オリックス赤坂２丁目ビル９階
TEL：03-5573-4069
FAX：03-5573-4060
URL：http://www.jafra.or.jp/

発行日：令和５年６月